

平成24年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成24年3月2日(金曜日)

議事日程第2号

平成24年3月2日(金曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 26名

1番	甲村聰君	2番	保坂悟君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	古畑浩一君	6番	後藤善和君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	久保田長門君	10番	保坂良一君
11番	中村実君	12番	大滝豊君
13番	伊藤文博君	14番	田原実君
15番	吉岡静夫君	16番	池田達夫君
17番	五十嵐健一郎君	18番	倉又稔君
19番	高澤公君	20番	樋口英一君
21番	松尾徹郎君	22番	野本信行君
23番	斉藤伸一君	24番	伊井澤一郎君
25番	鈴木勢子君	26番	新保峰孝君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君
総務部	長	田鹿	茂樹君	市民部	長	吉岡	正史君	
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君	
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君	
青海事務所	長	扇山	和博君	市民課	長	竹之内	豊君	
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	池亀	郁雄君	
健康増進課	長	伊奈	晃君	交流観光課	長	滝川	一夫君	
商工農林水産課	長	金子	裕彦君	建設課	長	串橋	秀樹君	
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者会計課	長	山崎	弘易君	
ガス水道局長		小林	忠君	消防	長	山口	明君	
教育	長	竹田	正光君	教育委員会教育総務課	長	結城	一也君	
教育委員会こども課	長	山崎	光隆君	教育委員会生涯学習課	長			
				中央公民館	長兼務	田原	秀夫君	
				市民図書館	長兼務			
				勤労青少年ホーム	館長兼務			
教育委員会文化振興課	長			監査委員事務局	長	横田	靖彦君	
歴史民俗資料館	長兼務	小林	強君					
長者ヶ原考古館	長兼務							

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	係	長	松木	靖君
主	査	大西	学君				

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、2番、保坂 悟議員、17番、五十嵐健一郎議員を指名いたします。

次の日程に入ります前に、昨日、議会運営委員会が開かれておりますので、その経過と結果について委員長の報告を求めます。

甲村 聡議会運営委員会委員長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村委員長。〔1番 甲村 聡君登壇〕

1番（甲村 聡君）

おはようございます。

昨日、1日に議会運営委員会が開催されておりますので、その経過と結果についてご報告いたします。

追加議案についてであります。議案第54号、平成23年度系魚川市一般会計補正予算（第8号）、議案第55号、変更契約の締結について、及び議案第56号、平成24年度系魚川市一般会計補正予算（第1号）であります。

議案第54号、平成23年度系魚川市一般会計補正予算（第8号）につきましては、8日の一般質問終了後の日程事項といたしたいものであり、委員会の付託を省略して、即決にてご審議願いたいことで、委員会の意見の一致をみております。

また、議案第55号、変更契約の締結につきましては、本定例会初日の2月27日の委員長報告でも申し上げましたとおり、8日に追加提案され、所管の総務文教常任委員会に付託の上、審査願うことで、委員会の意見の一致をみております。

なお、本定例会初日の2月27日には一般会計補正予算（第7号）が提出され、各常任委員会に付託となっております。今回、追加の補正予算（第8号）が8日に即決となった場合、第7号よりも第8号が早く議決されることとなります。8号がさきに議決されることにより、既定予算に対して補正後の計数整理が必要になりますが、議決後に議長の議事整理権で修正をし、計数整理したものを配付する予定であります。

次に、議案第56号、平成24年度系魚川市一般会計補正予算（第1号）についてであります。本会議最終日の3月26日の日程事項といたしたいものであり、委員会付託を省略し、即決にてご審議願いたいことで、委員会の意見の一致をみております。

次に、議会運営における議会改革について、それぞれの会派、議員から提出されました議会運営における議会改革の項目について協議がなされております。それぞれの項目について検討、協議する時期を、短期・中期・長期というふうに3つに分類するとともに、結論を出す時期を明確にして取り組むこととしております。

今後は、議会運営委員会において、短期に結論を出さなければならないものから順次協議をしていくことで、委員会の意見の一致をみております。

以上で、議会運営委員会の委員長報告を終わります。

議長（古畑浩一君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りをいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めることにいたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいまの委員長報告のとおり進めることと決しました。

日程第2．一般質問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は17名ありますが、議事の都合により本日5人、6日4人、7日4人、8日4人を予定しております。

一般質問の所要時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いをいたします。

なお、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いをいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。〔14番 田原 実君登壇〕

14番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

今回、私は「健康」「観光」「地域振興」をキーワードに、以下3点について質問と提言をいたします。

1、健康づくり、健康運動教室について。

(1) 糸魚川市健康づくりセンターはびねすでの取り組みについて伺います。

(2) 3月11日の能生地区での開催予定の「健康まつり」について伺います。

(3) 市内各地区公共施設を会場に市が取り組む健康運動教室について、また、運動指導員の育成について伺います。

(4) 温泉施設を活用する健康運動教室への取り組みについて伺います。

(5) ロコモティブシンドローム（運動機能低下症候群）に対応した健康運動への取り組みについて伺います。

(6) ストレスによる自律神経の乱れや、更年期障害に有効な健康運動への取り組みについて伺います。

(7) 楽しいダンスや人気の歌謡曲を取り入れた健康運動への取り組みについて伺います。

(8) 市民が主催する健康づくり、多種多様な健康運動普及への支援制度として、例えば「健康市民リフレッシュ事業補助制度」を設けてはいかがでしょうか、伺います。

2、森林資源活用、市内公共建築物への地場産木材の利用について。

(1) 学校、公民館等市内公共建築物への地場産木材の利用について、工事発注者としての市の取り組みについて伺います。

(2) 地場産木材を使用した場合のメリットとデメリットについて伺います。

(3) 木材の利用実施計画と実際の建設における使用の確認方法について伺います。

(4) 新しい糸魚川駅舎や自由通路への利用について伺います。

(5) 糸魚川の顔となる駅北口駅前銀座商店街のアーケードを、新しいイメージの木造アーケードとして建設すべきと考えますが、市の考えを伺います。

3、大糸線の観光利用推進について。

(1) 大糸線の利用状況と今後の運営について市の認識を伺います。

(2) 大糸線をシンボルとした広域を連絡する「姫川流域観光連携」により、大糸線を活用した交流人口増大と観光利用推進に取り組むべきと考えますが、市の認識を伺います。

(3) 5年前の大糸線全線開通50周年記念事業をきっかけとして新しくCD化され販売された徳久広司さん作曲、喜多條忠さん作詞、歌手西方裕之さんが歌う歌謡曲「大糸線」を使って情報発信や観光誘客を図るべきと考えますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、はぴねすでの運動プログラムは多様なメニューを取りそろえており、多くの方からご利用いただいております。今後も利用者のニーズをお聞きし、指定管理者と一体となって内容の充実に努めてまいります。

2点目につきましては、健康いといがわ21の周知と、健康づくりの意識づけを目的に開催するものです。食と運動の2本柱を中心に、健康づくりのきっかけとなるようなイベントで、今後は毎年開催してまいります。

3点目につきましては、現在行っている健康運動教室は運動習慣の定着を目的に、地区運動教室と健康体運動教室を実施いたしております。また、地区運動推進員は、地区運動教室における運動指導と健康づくりの普及啓発を担っており、今後も養成してまいります。

4点目につきましては、温浴施設を利用した水中運動教室などに取り組んでおり、今後も継続してまいります。

5 点目につきましては、現在行っている地区運動教室は、運動機能低下の防止、改善の効果があり、今後も継続してまいります。

6 点目につきましては、適度な有酸素運動やストレッチなどは、ストレスや更年期障害に有効とされておりますので、運動教室への参加を促しております。

7 点目につきましては、はびねすではダンスや音楽に合わせての運動がありますし、地区運動教室でも音楽を取り入れた運動を行っております。

8 点目につきましては、事業助成のような支援制度は特に考えておりませんが、教室運営での助言や、また、情報発信など側面での支援を行っております。

2 番目の 1 点目につきましては、設計と工事発注の仕様書で地場産木材の利用を明記いたしております。

2 点目につきましては、メリットとして、地域の森林の健全な育成、雇用の確保、地域経済の活性化などが挙げられます。また、課題としては、価格面や品質、量の確保などがあります。

3 点目につきましては、森林組合が発行する産地証明書及び製材会社が発行する納材証明で確認をいたしております。

4 点目につきましては、自由通路の壁面に活用することといたしており、新幹線駅舎につきましても地場産材の利用を要請いたしております。

5 点目につきましては、今後、実施主体となる駅前銀座商店街振興組合が、デザイン等も含めた設計に取り組む予定であり、組合の意向を尊重したいと考えております。

3 番目の 1 点目につきましては、昨年、市が乗降調査を実施いたしており、1 日当たりの平均乗車人数は平日が 1 8 2 名、休日が 3 3 4 名であります。また、今後の大系線の運営につきましては、JR 西日本により継続されるものと考えております。

2 点目につきましては、現在、塩の道に関連してイベントや誘客等で小谷村などと連携をいたしており、今後もより一層の連携を進めてまいります。

3 点目につきましては、当市に關係する音楽情報等の発信は、知名度アップや観光誘客に有効な手段の 1 つと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくご質問申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

1 4 番（田原 実君）

2 回目の質問は順番を変えて、質問の 3、大系線の観光利用推進についてからお願いをいたします。

今冬の大雪による大系線の運休。頻繁に運休となるイメージダウンから、観光利用においても影響があると考えます。早くイメージアップを図りたいところです。ことしは大系線全線開通 5 5 周年に当たるので、少し思い切ったイメージアップ事業に取り組んではいかがでしょうか。新年度予算の事前審査にならない範囲で行政の考え、取り組みを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

おはようございます。お答えいたします。

まず、2月21日に記念事業実行委員会を立ち上げた上で、この実行委員会のもとに幹事会を置いて、実務的な協議を行っていきたいと思っております。記念事業の個々の内容につきましては、今後この実行委員会や、それから幹事会で詰めていきたいと思っておりますが、今のところキハ120のラッピングや花いっぱい事業、フォトコンテスト、ジオ鉄マップの作成、また、協賛支援事業などを行って、塩の道祭りやスタンプラリー等、これは1例であります。今後、実行委員会、幹事会で詰めていきたいと、このように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

ここは最初から提言とさせていただきたいと思いますが、大系線をシンボルとして広域を連絡する姫川流域観光連携により、小谷村、白馬村との連携で行う大系線を活用したイメージアップ事業ということで、歌手の西方裕之さんをお招きしての大系線コンサートの実施はいかがでしょうか。その際、大町市から白馬、小谷、糸魚川と西方さんに大系線に乗っていただき、テレビ番組やプロモーションビデオを作成してマスコミを活用し、カラオケ配信やインターネット配信し、大系線を宣伝して首都圏からのツアー、人気の大系線でめぐる北アルプスと日本海の旅を実施する。ことし中に全部は無理でも、せめて大系線コンサートの開催などいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大系線のこの曲は、非常に私といたしましては、大系線と糸魚川を売り出す1つの大きなインパクトのあるものにとらえておるわけでありますが、以前に大系線利用促進の中で、少し提案をいたしたことがあるんですが、あまり他の市町村はイメージが暗いのではないかなというように、なかなか乗ってこなかった部分がございます。そのようなことで、この沿線一円で売っていくということで、一番いいことであるにとらえておるわけございまして、その辺はいかがかなというのを考えている次第でございまして、まず、糸魚川としては、非常に効果があると私はとらえておる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

「松本を過ぎると空気が冷たい」という歌い出しなんですね。確かに暗い感じはあるのかも

ませんけども、日本人の情感に訴える。また、この曲がつくられた当時のフォークソングの世代の方が、今、皆さんいい世代になっておりまして、私はきっとまた人気が出るんじゃないかなと考えております。

5年前に行った大糸線音楽祭は、作曲家、徳久広司さんをゲストの審査員にしまして、徳久さんの作品を歌うコンテストという試みでございました。情感込めて市民が歌った「大糸線」に、徳久さんがいたく感激されまして、舞台の上で「大糸線」の歌の復活を市民に約束し、それが実際にCDとなり発売されました。そのおかげで、私たちはカラオケでも「大糸線」の歌を歌って楽しむことができるようになりました。音楽イベント会場には市長もいらして、徳久さんと親しくお話をされたと思いますが、その徳久さんの市民への約束を守った男気というか糸魚川を思うお気持ちに、私たちはもっとこたえて行動してもいいと思うんですが、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も徳久先生にお願いした経緯がございます。カバーリングをぜひお願いしたいと。そしてまた、特に、この大糸線を売り出せる歌詞をお願いしますといった経過がございますので、私もやはりお願いした一人といたしましては、本当にこれをどのようにしていくかというのも、私、糸魚川を代表する責任のあることだなと私もとらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

ぜひ活用をよろしく願いいたします。

では、健康運動教室の2回目の質問になります。

健康づくりセンターはびねすの健康運動教室のメニューで、特に評判がよいものは何でしょう。また、そのメニューのこれまでの実施回数、利用者数の累計、また、はびねすの健康運動教室のメニューは指定管理者コナミに帰属するものなのか、市と共有するものなのかもお聞かせください。コナミに帰属するならば、はびねすに行かなければならないし、でなければ、今後、市域のあちこちで、そのメニューを多くの市民が経験できる期待があるからです。今後の取り組み予定についても、あわせて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

おはようございます。お答えいたします。

まず、主なはびねすの人気のメニューでございます。

2つありまして、1つはズンバというものでございます。これはラテン系の音楽に合わせて

踊るものでございまして、初心者でも受け入れやすいというものでございます。2月末での実施回数は70回、延べの利用者人数は1,345人となっております。もう1つはシンプルヨガというもので、これはヨガの基本的なポーズを行うものでありまして、基礎代謝を高める効果がございません。実施回数は81回、利用者累計は2,004人となっております。

メニューの帰属はコナミでございまして、はびねすは運動を取り入れた健康づくりの拠点施設といたしまして、地域と連携して市内全域で運動習慣の定着を図ることが基本的な考えでございますので、その連携の1つとしまして、このコナミのメニューも地域で実践していただけますし、今後もそのように取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

3月11日に予定されている健康まつり、昨年の災害でお亡くなりになった方のご冥福をお祈りし、当市では元気になれるイベントができることに感謝しつつ私も参加をいたしますが、健康まつりの健康運動の詳細について、インストラクターや行政のスタッフの数も教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

運動の詳細ということですが、はびねすのメニューであります。先ほどお答えしましたズンバと、それからストレッチポールというものを使いまして姿勢スッキリ体操というものがございます。この姿勢スッキリ体操は、直径10センチ前後の長さ1メートルほどの発泡スチロール製のポールを使いまして、仰向けで背筋が当たるように寝まして姿勢を正す運動、この2本を予定しております。

スタッフの数ですが、コナミのインストラクター1名、市の健康運動士1名、保育ルームも設置しますので臨時の保育士2名の合計4名を予定しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

これがそのチラシであります。このチラシには、楽しくてお得なイベントですというふうにあります。本来は有料のものが無料となっていて、お得ということですね。では健康まつりの健康運動のみを実施するとなれば、本来の経費は幾らかかるのか。インストラクター、スタッフの人件費、チラシの作成と配布にかかる事務的経費、かわる行政職員の給与もすべてひっくるめて、およそ幾らになるのか教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

先ほどお答えしましたスタッフ4名の人件費と、チラシの作成費など事務経費を合わせまして、約1万5,000円でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

すべてひっくるめて1万5,000円というのは、ちょっと安過ぎるんじゃないかなと思うんですけどね、本当ですか。行政が行えば無料、しかし、市民が同じ内容の健康教室を企画し実施をするとなると、かなりの経費がかかっていくのではないかなというふうに思うんですが、今1万5,000円ということでしたよね。本当にそれでやれるんですかね。もう1回、確認してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

健康まつり全体にかかる費用は、全部で24万5,000円ほどでございます。そのうち先ほどの運動にかかる分は、約1万5,000円でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

事務的経費、かかる職員の給与、すべてひっくるめて1万5,000円ということは、かなりお安い料金で皆さんに動いていただいているんだなと思います。

さて、健康運動教室の目的は、市民が楽しく体を動かす習慣の定着を図るために、運動の楽しさや気持ちよさを体験し、自分に合った運動を見つけること。また、運動教室に参加したり、一緒に運動できる仲間づくりをする機会を市民に提供することです。市で進めることから、市職員に専門性と権限を持たせ、一定の基準を持って、しっかりとした健康運動の習慣を市民に定着させるために、市民の中に運動指導員を育成をしております。

ただ、そのことが功を奏しているのかどうか、分析して議会で報告されたでしょうか。健康いといがわ21においては、市民の目標が示されるだけで、運動指導員の育成や、その活動状況とか、運動指導員1人当たりが担当する市民の数とか、市内全域できめ細やかな運動教室が展開できているのかどうか、今後の運動教室の実施計画はどうか、わからないので教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

何点かまとめてのご質問ですので、漏れがありましたら、またご指摘いただきたいと思います。

運動教室の費用につきましては、今回イベントということで、市がPRを兼ねて実施するということから無料といたしておりますが、市が実際に通年実施しております運動教室では有料となっております。運動教室の開催の仕方や講師によっては無料・有料、あるいは金額の多寡とさまざまなケースが考えられます。

はびねすのメニューを地域で開催すると、この費用につきましては、はびねすでの参加者との整合性がございますので、その辺は今後検討していきたいというふうに考えております。

運動指導員の育成でございますが、開催する各地区、公民館単位で地区運動推進員という方を選出していただき、市の健康運動士がこれを養成しまして教室での運動指導、あるいは健康づくりの普及啓発に取り組んでいただいております。

この教室の効果、分析ということでございますが、参加者は体力測定、並びに体組成測定というものを行っております。今年度で丸5年経過しますが、長期参加者のデータからは敏捷性やバランス感覚の向上、それから筋肉量の維持が図られているなどの効果が見られます。現在分析中でございますので、新年度に入りまして、委員会でもたご報告させていただきたいというふうに考えております。

推進員1人当たりの市民の数等のことでございますが、1月末現在の教室数は17カ所、これは週1回、通年実施でございますが、推進員は現在13名、参加者は550名、推進員1人当たりで換算しますと42名となりますが、1カ所について1名配置でございますので、1カ所当たり32名となっております。

今後ですが、18年に3カ所112名から始めまして、徐々にではありますが参加者がふえておると。今後、身近な場所で気軽に参加できまして、運動習慣の定着が図られますよう進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、次に温泉施設を活用する健康運動教室について伺います。

温泉が好きという方が、さらに運動も好きになっていただくきっかけになると思います。ジオサイトをめぐって温泉に入る、あるいは施設の周辺を運動指導員と一緒にウォーキングをする、それだけでも糸魚川のジオツーリズムのメニューになると思います。温泉の効能やリフレッシュ効果と運動を組み合わせた健康運動教室を市で、赤字を補ってんしている温泉施設で実施して、これが市内、市外からお客様を呼び込むことができれば一石二鳥となりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

ジオツーリズムと健康づくりでございますが、ウォーキングによるジオサイトめぐり、この際、健康運動指導士が出向きまして準備運動とか、あるいはウォーキングの指導など、これまでも行っておりますし、今後もこれらのことも含めまして、連携して取り組んでまいりたいというふうに考えております。

市で補てんしている温泉施設ということでございますが、この施設では市の水中運動教室を実施しております。通年開催できる唯一の施設ということもありますので、今後も続けてまいりたいというふうに考えておりますし、また、施設側とは施設全体の利用促進に向けまして協議しております。特に、高齢者の健康福祉の向上をメインに、新たな取り組みについて、今協議しておるところでございます。施設側からは料金体系の見直しとか、あるいは健康体操、水中運動の促進など、運動のほかは誘客のためのアイデアが出ておりますので、今後、期待したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

温泉を活用する健康運動の取り組みは、数年前に健康づくり大学事業としてこの市内で実施されております。当時、私は健康と観光と地域振興に期待できるものとして一般質問で取り上げ、当時の担当課長からは、参加者も満足し、好評で大きな成果があったと答弁いただきました。そうでしたよね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

健康づくり大学に関しましては私が商工観光課時代、国のメニューにのっとって実施をさせていただきました。我々、参加者からは、非常に有効であるというふうにお聞きをしております。これはある程度、観光の誘客にはつながるのではないかという考え方でございました。

2年ほど続けてみましたが、参加者がなかなか伸びないという状況、それから市外からもお客さんを呼ぼうということで、いろいろ手を打って宣伝をしてみたところではありますが、景気の関係等もございまして、なかなか伸びなかったという実情がございました。その段階では、これから先は少し厳しいなということで、この健康づくり大学については断念をしたところではありますが、温泉と健康という意味では、非常に参加者からは有効な手段であるというふうにはお聞きして、そのような答弁をさせていただいた記憶がございます。ただ、なかなか観光には結びつかなかったという

のが、現状でございました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

その健康づくり大学事業ですが、健康増進課の職員もインストラクターで参加をしているはずで
す。そういったことから、この事業の継続はないのかなと、そのとき限りの健康づくり事業だった
のでしょうか。今後の取り組みについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

先ほど総務部長が答えたとおりでございますが、3年間実施いたしまして、その後は温泉施設等
で自立といたしますか、やっていただくという予定でございました。その後、やっぱり採算性の問題
とかニーズの問題等で、なかなか実施できないということのようでございますが、今後、またその
ような取り組みが始まりましたら、健康増進課としてはフォローしていきたいというふうに考えて
おります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

では、次に、ロコモティブシンドロームに対応した健康運動、それからストレスによる自律神経
の乱れや更年期障害に有効な健康運動、また、楽しいダンスや人気の歌謡曲を取り入れた健康運動
への取り組みについてまとめて伺います。

この3つは市民ニーズがあるものと思い、市で取り組むべき課題として取り上げてみました。そ
の実現には医学や介護の知識を持つ人材、心のケアのできる人材、エンターテインメントの楽しさを
うまく伝えられる人材の育成が課題と思います。そこも含んで、今後の取り組みについて担当課に
伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

ご指摘の3つの市民ニーズの問題ですが、運動はもちろんのこと、心のケアなど健康相談や指導
も重要になっております。

これらに対応する人材ということでございますが、市では健康運動士をはじめとしまして、介護

や心のケア専門の保健師もそろえておりますので、これらを活用しまして個別の運動指導、あるいは心のケア、それぞれニーズに対応した取り組みを行っておりますし、今後もまたそのように進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

今回の質問の趣旨は、市民が楽しく体を動かす習慣の定着を図るため、運動の楽しさや気持ちよさを体験し、自分に合った運動を見つけること。また、運動教室に参加したり、一緒に運動できる仲間づくりをする機会を市民に提供するにはどうしたらいいのかということです。

私たち会派は3年前に、社団法人日本フィットネス協会を訪ね、なじみの音楽で楽しく体を動かすフィットネスについて調査しました。その中から、この美空ひばりさんの歌によるフィットネスダンス、ひばりエクササイズを実践して検証しました。

この説明によれば、中高齢者の介護予防と自立した日常生活の基礎生活体力の保持・増進、日常生活動作能力の低下を抑えるエクササイズで、体を目覚めさせるウォーミングアップから有酸素運動へと展開し、最後は、心身をリラックスさせるクールダウンへと導く。複雑な動作はなく、覚えやすく、楽しみながら運動できる振り付けであるというふうにあります。

ただ、伊井澤議員も私もフィットネスダンスの経験がなく、健康運動に知識と経験のある市民にインストラクターをお願いして、このDVDを見ながら健康体操とフィットネスダンスを行いました。参加者と相談し、皆さんご存じの「愛燦燦」でウォーミングアップ、「お祭りマンボ」と「真赤な太陽」でダンス、そして最後は「川の流れるように」でフィニッシュというコースにしました。

参加者の感想は、「大好きな美空ひばりさんの歌に乗って楽しく体を動かしてリフレッシュした」「インストラクターのお話が楽しい」「体力アップや病気予防の話も聞けてよい」「新しい知り合いができ外に出るきっかけがふえた」と大変好評でした。その様子を見てほしいと担当課に案内しましたが、取り上げるに値しないとお考えになったのでしょうか、市民ニーズを調査する姿勢が感じられずに残念でありました。

健康いといがわ21には、市民みずから主体的に健康づくりが実践できるよう、連携を図りながら支援していくためにつくるというふうに定められておりますけども、ここのところはどこへいったんでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今ほどの美空ひばりの歌謡曲を利用しました運動教室、確かにご案内がございましたが、大変申しわけございません、行く機会を逃しまして大変失礼いたしました。この今の市でやっている地区運動教室も、今ほど申しました最初から最後まで波を設けました運動をしておると。やってることは、大体同じなのかなと考えてます。市民の運動に取り組む姿勢というのは、十人十色でございま

す、いろんな形や方法がございます。それをやっぱり市としても、そういう自主的にやってる方についてはいろんな形で連携、フォローをしてまいりたいというふうに考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

こういった経験から、私は市民みずからが自分に合った運動を見つけたり、運動教室への参加や、運動できる仲間づくりをするためには行政職員が頂点に立ち、運動指導員を動かすだけでなく、市民の自主性が生かされる健康運動教室の開催に対して、支援するシステムも必要と考えております。今回提言する健康市民リフレッシュ事業補助制度、そのモデルとなるのは糸魚川市まちづくりパワーアップ事業の仕組みです。

具体的な説明をしますと、健康運動教室の会場、インストラクター、備品の費用の2分の1を参加者が負担し、2分の1を市が支援する。例えば会場費を、ビーチホールまがたまのスタジオ料金を参考に2時間で約1,000円、インストラクターへの謝礼を市の臨時職員の時間給1,000円の2倍として2時間で約4,000円、あと備品使用料や保険料が1,000円で、合計6,000円とします。参加人数を仮に15名とすれば、2分の1補助の残り3,000円を割り勘定して1人200円、この運動教室が月に1回、年に12回の開催なら参加者は通算180名、市内の50カ所で開催されれば通算9,000名の市民が元気になるきっかけができます。市の負担は、1回3,000円×12回×50カ所で180万円、それで市民は200円で身近な施設で健康教室に参加できます。一方、市民インストラクターの数が仮に10名だとすれば、1人平均60コマの教室を持ち、年24万円の収入を得ることになり、意欲もわくと思います。

この取り組みは、必ずや健康市民の数を押し上げ、最終的には介護や医療費の抑制に効果をもたらすと思います。ぜひ取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか、再度伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今現在、市で進めております地区運動教室、これはまだ先ほど17カ所と申しましたけども、これをまだまだ進めていきたいと、身近なところでできるようにということを考えてます。それにはやはり費用がかかるわけでございますので、今のところはそちらのほうに力を注いでいきたいというふうに考えておりますし、今、ご提案の件につきましては、その後、また検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長はよく行政だけでできるものではないと、市民からも頑張っていてということをよくこの議場でお話されてると思うんですね。そういったことから市民の自主性や企画力に任せた健康づくり、こういったものが必要ではないかなと思います。

米田市長は市長選挙に出られたときには、健康づくりということも大きな政策の柱に掲げていらっしゃいました。市長、いかがでしょうかね。市民みずから自分の企画で進める健康づくりということにも力を入れていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私はやはり今ご指摘の点については、私も本当に同感するものでございます。ただ、私といたしましても持続することが、やはり大切ととらえておるわけでありまして。その辺を担当課と、今、話をさせて進めてるんですが、なかなか広がっていかない部分がございます、その辺が1つの隘路になってたところがあるわけでございますが、音楽というのは、やはり1つの大きな切り口であると思っております。

そんなところで、一体となっていかなくちゃいけないんだろうと思っておるわけでございますので、その辺が一体感を持ってやれるかどうか。また、もしそうでなくても、そうやって広がりがあるものなら、またいろいろと市民主導型の中で進めていただいて、しかし、私といたしましては、やはり少しでも健康になることが大事なものですから、どちらへいっても市民の健康が、どのように進んでおるのかというところが大事だろうと思ってるわけございまして、当初から、私は健康というのはやっぱり数字を見ながら、そして、その健康というものは何かの判断、基準というものをみつける中で進めたほうが、より健康に対して関心を持っていただいて、進めていけるんだろうと思ってるわけございまして、そういったところとあわせながら、また、そういったことが有効なものとなるかというものをとらえながら、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

よろしくお願ひいたします。

次に、木材の利用についての2回目の質問に入ります。

市内の木材関係者、企業、工務店からは、とにかく公共工事に木材を使ってほしいという要望があり、市長もその方針をあらゆる機会に示し、私の一般質問においても木材の利用促進、新たに公共施設を整備する際は、積極的に利用を検討すると答弁されました。

しかし、実際はどうでしょうか。部長、庁内での具体的な木材利用検討会議や実績報告会というものがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

おはようございます。

庁内で木材の利用促進に関する会議等が設置されておるかというご質問でございますけれども、会議という形で設置はされておりませんが、公共建築物の地場産木材の利用につきましては、庁内の部課長会議で利用推進に係る各課の協力要請を行っておりますほか、それぞれの建築される予定の建物の設計の段階で、担当であります商工農林水産課と設計担当課が協議をいたしまして、地場産木材の利用を進めております。

また、実績報告会についても会という形では同様に設けておりませんが、実績の利用につきましては、その翌年度、各課からのヒアリング等によりまして、概要を把握しておりまして、その後のさらなる利用促進に努めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

連絡はとってるということだと思いますが、どうして関係者の方から、もっと気を使ってほしいというふうに言われてるのかということ、やはり市役所のほうでの使用が、まだ進んでいないのかなと考えざるを得ないわけです。24年の予算案にも、学校、保育園、公民館、文化施設、地区集会施設等の建設が盛り込まれております。すなわち、ここは木材利用のチャンスです。しかし、そのチャンスが生かされていくのかどうか私たちにはわからない。

市発注工事における木材利用の実施計画というものをしっかりとつくって、それを現場においてちゃんと使っているのかどうかの確認をして、最後は地域への経済効果についてどうなのかということまで検証する、確認をするということが大事だと思うんですけども、そういった取り組みがないということですか、やってるということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

地場産材の利用の状況については、今ほど部長が申しあげましたように、22年度の状況については翌年度に、どの程度使われたかというのを把握しております。それらの状況を見ながら、なお利用促進に向けた取り組みをいたしております。

地域の経済効果的には、数量的には分析いたしておりませんが、木材関係の産業振興につながっているというふうに思っておりますので、そういう関係者の皆さんと、なお一層使ってもらうにはどうしたらいいかということでの話を常々進めておるところでございます、そういう機会をとらえて、地場産材の利用促進になお一層つなげていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

現場での地場産材使用の確認方法でございますが、出荷証明で確認しております。中でも地場産材の利用につきましては、越後杉ブランド証明などを添付してもらって確認しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

実例から、具体的にちょっと伺います。

今、問題になっている（仮称）山ノ井保育園の建てかえ工事、これは計画では、どのくらいの木材を使用しますか。そのうち地場産木材はどのくらいの割合ですか。また、工事に当たる木造技術者、平たくいえば大工さんたちの人件費というのは、どのくらいになっているのか、そういったことというのは、ちゃんと押さえてありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

（仮称）山ノ井保育園の新築工事に関しましては、木材利用量を全体で約730立方メートルと見込んでおります。そのうち地場産材の割合につきましては、約320立方メートル、パーセントで43%という程度を見込んでおります。

また、工事における技術者、それから大工さんの人件費につきましては、工事費の積算では材料と手間賃などの施工費が一緒になっております関係で、材工とも単価を利用しているものも非常に多く、大工さんだけの人件費については、把握していないというのが実態でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

木材を利用することのメリットということは、やはり大工さんに仕事があるということは、地元にお金が回るといことですね。したがって、これまで以上にそういったところも含めての分析というものも必要ではないかと思うんです。1つ1つの建物の工事において、そこまで踏み込んで計画をつくり、実施を確認し、経済効果の確認までしていくような形を、ぜひとっていただきたいということをお願いしたいと思います。

それでは新しい糸魚川駅舎や、自由通路への木材の利用についてはいかがなのか伺います。

港湾交通特別委員会の中で、私は事あるごとに新しい糸魚川駅舎や自由通路への木材の利用を訴

えてまいりました。他市で建設された駅舎や付随する施設の内装や柵には、必ず木材の利用が工夫されており、その美しさや温かみが素晴らしいからであります。市の担当は、各地の駅舎施設を調査しましたか。どこの施設を参考に、駅舎や自由通路への木材の利用を検討してきましたか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

特に木材の利用のみという、そういうもので意識して調査したというものではありませんが、当然ながら木の持つ特性や、それからよさは認識しております。そういう中では今利用できるところ、駅周辺整備の中で、建築の中で利用できるところは、できるだけ利用する方向でありますし、また、そういう市長から指示も受けているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

特別委員会であれだけ言われても、これは私の想像ですが、JRに計画を丸投げして、積極的な調査や検討をしていないんじゃないかと。ここに示された案、新しい駅舎、自由通路の案ですけども、資料にはどこで木材が使われているのかわかりません。しかし、担当者は特別委員会では、木材の利用をしていくというふうに述べている。このままいけば、うそつきになりかねません。これでまじめに仕事をしてると言えるのか疑問に思います。木材の利用の推進のためにも、そこはしっかりと取り組んでいただきたいと思えますけども、部長、いかがですか。そういったところを皆さんに、ちゃんと話してますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

木材の利用につきましては、私どもやはり駅のこれから形をつくっていくわけでございますので、そこに地域の特徴として、また、デザイン面での温かみとか、そういったものの演出としても効果的であるというふうに考えておりますので、どの部分に対して、どのような利用の仕方がよろしいか、これはしっかりと検討を進めているということでございます。

これにつきましては、今後、実施設計の中でまた具体的な部分が、どこにどんなふうに活用されていくかというものを詰めていく形になってまいりますので、今後の利用の推進についても、意を用いて取り組んでまいりたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

特別委員会で、いつもそういうお答えなんです。だから、それがもう契約とかいろいろと進んでるじゃないですか。議案にも載ってきてますよね。だけども出てるものに、そういったものが反映されてないから心配してるんですけどね。いつごろ、じゃあそれは示されます、しっかりと。こここのころに、こういう木を、これだけ使っていきますとか、こういうふうに見えますということが、私たちにわかるのはいつなのか、それをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

使っていくと我々はお願いをさせていただいておりますし、自由通路には絶対使っていくと言ってるわけございまして、私はその「丸投げ」という言葉は、何をとらえて丸投げと言っておられるのか。そしてまた「うそつき」という言葉は、何をとってうそつきと言ってるのか、本当に私は疑うわけございまして、我々は進めていくと明言させていただいてるわけございまして、絶対に進めていきます。

そして内容については、まだお示しする状況ではございませんし、デザインの中でこのように言ってるわけございまして、我々といたしましては、その段階でございまして。これから設計協議の中において、どの辺を進めていくのかというところは、きちっと出していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

さて、私は木材利用推進のために、また、ジオパークの顔としてのイメージアップのために、糸魚川駅北口駅前銀座商店街のアーケードを木造アーケードとして建設すべきという立場から、市の考えを改めて伺います。

さきの12月議会の私の質問に対して担当課長の答弁は、アーケードの事業費は実施主体の駅前商店街組合での今後の規模やデザイン等の検討の中で明らかになる。仮に、これまであったアーケードと同規模の延長360メートル、ほかの事例にある標準的な経費ならば3億円程度と想定されるというものでした。つまり、これまでと同じ歩道いっぱいの幅の鉄骨のアーケードを、今までと同規模でつくれば3億円かかると。ただ心配なのは、これまでと同じような鉄骨のアーケードのつくり直してでも、国からの補助を受けられる見通しはあるのかどうかということですが、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

国の補助要綱の関係でございませけれども、補助要綱によれば社会課題に応じた集客力の向上、それから、売り上げ増加に効果がある取り組みを補助として支援していくという状況になっております。そのためにはアーケードにつきましてもソフト事業を実施して、あわせてアーケードの必要性を位置づけるという計画の策定が重要だと思っております。したがって、構造の云々で補助の内容が変わるということは、基本的にはないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

12月議会の斉藤伸一議員の質問に対しまして、アーケードのデザインや規模は商店街振興組合の皆さんと今後話し合うが、視察をしてきた南魚沼市の伝統的なまち並みも参考事例として協議をします。商店街振興組合が策定予定の商店街活性化計画の中で、既存のまち並みを生かした糸魚川の広域商店街を回遊する、まち歩き観光による商店街活性化につながる事業計画となるよう、取り組みを支援するという答弁があったと思います。

市長からは、今はまだ計画の段階、仮に国からの補助が受けられなくなった場合においても、そのときは関係者の皆さんと協議し、計画が頓挫することのないようにしなくてはならないと思っております。仮に国からの補助が受けられなくなった場合の市の対応、これは鉄骨のアーケードでも木造アーケードでも変わらないですか。木造アーケードだったら市がたくさん支援するから、国からの補助はあてにしないでいいと、そういうことにはなっていきませんか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在、国の補助を受けるべく商店街組合の取り組みに協力し、支援をしております。アーケードの設計内容につきましては、商店街組合の意向を尊重しながら協議して進めていきたいというふうに考えております。現在のところ木造、鉄骨構造の違いによって市の補助が違うという考え方はございません。

なお、アーケードの設置につきましては建築基準法、あるいは道路法によりまして、アーケードの設置基準というものが定められております。これに照らし合わせて、許可がされるということになります。市としてはアーケードありきではなく、商店街が活性化するためには、どのようにしていったらいいのかという中にアーケードを位置づけながら、商店街組合の皆さんと協議をして進めていきたいと、このように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

であるならば、役所は役所の役割を果たしていただきたいと思うんですね。今、市が事業主体に対してなすべきことは地域商店街活性化法の認定のための支援、それから中小商業活力向上補助金採択のための支援です。市としては、どういう形で協力をしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

活性化計画につきましては、商店街の各組合員の皆さんが一丸となって、消費者のニーズに合った計画づくりを進めることが大切だと思っております。計画づくりにつきましては、商工会議所とともに市も連携をして、協力して進めていきたいと思っております。経済産業局との協議がスムーズに進むように、市としてもこれまで支援をしてきておりますし、今後も続けて支援をしていく考えでございます。

商店街としての各個店の魅力づくりに取り組む姿勢が、まず一番大事であります。機会あるごとに商店街組合の役員の皆さんと、どのような商店街づくりをしていきたいのか、それぞれ気持ちを一にして進めていこうではないかということでの話し合いをしておりまして、今後もそのような話し合いを続けていき、それで経済産業局とのつなぎ役も果たしていくということで、市の役割を考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

国からの補助金が受けられるために、積極的にマネジャー役を買って出るということですね、そうとらえていいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

市としては全体の事業がうまくいくようにということで、商工会議所とともにそれぞれの役割を補完し合いながら、市としても全体的なコーディネート役目を果たしながら進めていきたいと、のように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

補助金の採択ということは、事業実施においては非常に大きなポイントになってくると思います。ですから、そのために市がなすことは何かといえば、商店街の皆さんがやれることと、会議所がやれることと、市がやることをそれぞれの役割を十分認識して、全体のコーディネートを市がして、

大きなまちづくりのビジョンの中で、そのアーケードが必要なんだということと一緒にやって、訴えることではないかと思うんですよね。商店街の皆様、この補助金が採択できるかどうかということまでも、すべて任せているというような状況ではないのかなということをお心配しておりますけども、部長、いかがですかね。そういったところ、やはり部としての責任といいますか、役割というものを、私、今回示していただきたいと思うんですよね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

商店街振興組合の取り組みに対しての市の支援ということでございます。

私が昨年4月に参って、商店街でアーケードの再構築の取り組みがこれから始まるというお話を聞いたときにも、やはり補助金の採択というのは非常に大きなポイントになるだろうということでございましたけれども、なかなか組合員の皆さんの方向性といいますか、取り組みの姿勢とか、また考え方といったものがバランスがまだとれていないんだと。また、それぞれの先の目標につきましても、まだしっかりと固まったものがないんだというふうな状況をお聞きしたところであります。やはり、それをきちんと固めて進めていくことが、商店街の振興に対しては非常に重要なことであります。アーケードをつくるのが目的になるのではなくて、アーケードをつくって、新幹線ができてからお客様がおりてみようと思うようなまちになって、また、そのためには商店街の皆さんが、自分たちがどんな商売の仕方といいましようか、取り組みをやっていって、まちがよくなっていくかというものをしっかりと頭に思い描いていかなければ実現できないと思います。

そういったことから、将来の計画をどういうふうにまとめていくかということにつきましては、私も含めまして商店街の組合の皆様と、これからどういうふうに進めていくべきか、お話をさせていただいてきたところでありますし、市も商工会議所と今連携をとって、商店街の皆さんの将来構想づくりのバックアップをしていくということで進めております。そういったことから、この事業の取り組みにつきましては、引き続きコーディネート役を果たしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市としてはまちづくりと、それから木材利用という視点を持っていただきたいと、このように考えております。

先ほど課長からは、アーケードの設置に基準によってというお話が出ました。アーケードというのは公共土地の上に立つ、できれば耐火構造のものが望ましいということになっておりますので、木造というのは、実は計画上は不利な面があります。しかし、そこを乗り越えてつくったときには、ほかにはまねのできないもの、つまりまちの個性として皆さんが見にくるものに、そのようなものなんですね。

したがって、私はこの補助金の採択を受けるには、そういったことを一緒に考えていく必要

もあるのではないのかなというふうに考えまして、以下、意見を述べさせていただきたいと思いません。

中小商業活力向上補助金の採択を受けるには、木造アーケードとしたほうがいいのではないかと。その理由は、平成10年につくられた高知県高知市のはりまや橋商店街アーケードが、日本初の木造近代アーケードとして優良木造施設林野庁長官賞を受賞。それと実はそれよりも前に、国の補助金をもらい工事が行われた糸魚川市本町通りの雁木改修事業が、建設省まちづくり月間賞を受賞、ごく最近では、新潟県南魚沼市塩沢宿、牧之通りが雁木と伝統的なまち並みで国交省都市景観大賞と手づくり郷土賞、また、全国街路事業優秀賞も受賞しています。つまり、まちづくりの賞をもらうには木造が有利と思われる。

その背景には、地域の林業振興、木材利用という課題があり、国も県も事業をプッシュしやすい。本町通りの雁木改修事業も、たしかそうだったと思います。その地域振興のストーリーが一たび公的機関に認められると、どんどん補助対象のメニューに乗っかるようです。ならば、この波に乗せなければならぬ。糸魚川なら国から賞をもらった前例のある、本町通りの雁木改修事業との関連を前面に出すべきです。

また、中小商業活力向上補助金の指針にも補助対象事業として6つ定めていますが、木造アーケードとすれば、そのうちの低炭素社会構築環境リサイクル事業と、地域資源農商工連携事業の両方に該当する可能性があります。以前と違い、アーケード事業への補助金が極めて少なくなっている中で選ばれるには、駅前アーケードは雪国の風土がつくった雁木の機能を継承した、若者にも格好いいと感じてもらえる新しいイメージの木造アーケードのほうがいい。そのように建設の必要性や必然性を、まちづくりやまちめぐりの全体構想と絡めて支援を訴えることが、国から補助を受ける重要なポイントだと私は考えますが、この点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もやはりそのような考え方で今進めてるわけでありますが、しかし、基本として忘れてならないのはアーケードありき、木造ありきでないと思っております。それはどういう位置づけの場所だと、そういうところが大事なわけございまして、やはり商店街という1つのまち並みでございますので、そこに住む人たちがどのように考えるのか。それがまとまらないうちに、行政が先になったり、アーケードありきでいくということには、私はならないんであると思っております。

そういった方々の気持ちやどのようにまとまったかと、まとめるのか、そういったところが大事であるわけございまして、その上で、今、ご指摘の点について進めていけば、私は必ずや、やはり支援がいただけるんだろうと思っておりますし、また、それぐらいしっかりしたものであれば何をいわず、行政もやはり支援していかなくちゃいけないんだろうという形になるんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原議員。

14番（田原 実君）

市長からは力強いご答弁をいただいたと思います。ぜひよろしく願いいたします。

参考までに、木造のことについてお話をしてお話をし質問を終わりたいと思いますけども、木造は鉄骨造に比べて柱の数は2倍になりますけども、その分、細い柱となり邪魔になりにくく、木はさわってぬくもりがあるので高齢者のヒートショック防止にもなり、見た目にもやさしさと、ぬくもりがあります。火に弱いと言われますが、燃え代を確保し、部分的に防火対応をほどこせば、避難時間の確保ができます。接合部に金物を使い、耐震構造とすることもできます。鉄に比べて軽いので、基礎を小さくすることができ、地下埋設物への支障が少なく済みます。幅を今の歩道の約半分の2.5メートル程度、延長360メートルとした場合の木造アーケードの建設費を、私は1億8,000万円から2億円と試算しています。参考にいただければ幸いです。

いずれにせよ市民のためのアーケードが、新幹線開業まで無事着工し完成できますように、行政からの支援をお願いいたしまして質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

田原議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を11時25分といたします。

午前11時12分 休憩

+

午前11時25分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、斉藤伸一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。〔23番 斉藤伸一君登壇〕

23番（斉藤伸一君）

おはようございます。

これより発言通告書に基づき市長の考えを伺いますので、よろしく願いいたします。

1、部長制の成果と評価について。

私の平成23年6月定例会一般質問において、各部長から以下の仕事目標を伺いましたが、市長として各部の評価を伺います。

(1) 総務部所管について。

総務部が所管している分掌事務の課題解決の調整について。

庁内全体の課題解決に向けて各部長などとの総合調整について。

議会と行政の円滑化に向けた役割について。

職員が能力を十分発揮できるよう、所属長との連携による職場環境の整備について。

(2) 市民部所管について。

接客マナーの対応について。

福祉や医療、健康に関するサービス提供での、量・質の向上と負担の増大に対する課題解決について。

廃棄物処理や医療環境の整備など、重要課題に対し問題先送りではなく、職員の英知を集めた問題解決に向けた調整について。

(3) 産業部所管について。

新潟県から酒井産業部長が派遣されているが、市と県のパイプ役と、当市の課題や魅力を見だし、施策立案への活用などの役割について。

各部長と組織を越えた横の連携について、十分な情報交換の実施について。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

斉藤議員のご質問にお答えいたします。

(1)から(3)までまとめてお答えいたします。

私にとりまして市政を執行する中で3部長は重要な役職であります。

ご指摘の項目の評価につきましては、1役職での評価判断は難しいところもありますし、また、このほか市政運営会議や部課長会議などの中で、相談や意見を聞いたりいたしております。課題解決、調整、連携機能を果たしていると考えている次第であります。よって、私は総合的に大変評価をいたしております。

しかし、個々については人事評価となることから、このような場での発表は行うべきでないと考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それでは2回目の質問に移らせていただきます。

市長から今、各部の評価は大変評価しているという答弁をいただきましたが、それでは、これより各部長から6月の仕事目標を示した、そのことについての成果及び反省、または課題についてそれぞれ伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

平成23年6月定例会の一般質問におきまして、斉藤議員より総務部長としての年間の仕事目標についてご質問をいただいております。私のほうは総務部長としての目標を幾つか掲げさせていただきまして、そのことの実施に向けて1年間努力していくという答弁をさせていただいております。

1年間の評価につきましては、市長、副市長、さらには職員にお任せをしたいと思います。行政課題が山積する中で、市民部、産業部、それから教育委員会、さらには議会との調整役として努力をしてきたというふうに考えております。

職員の資質向上、意識改革につきましては、私としては目に見える成果はなかったように思っておりますが、着実に、そしてまた少しずつではありますが、根づいているというふうに考えております。

また、働く環境整備や働きやすい職場環境づくりにつきましては、私としては精いっぱい努力したつもりでございますが、来年度以降も各部長、さらには所属長に、継続して努力していただけるものというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

6月に申し上げました私の市民部長としての仕事の件なんですけれども、まず、ご質問にありますように重要課題に対して、できるだけ先送りをしないでという形で、どう取り組んだかということでございます。

これにつきましては、市民部の各職員の頑張りが一番大きかったわけでございますが、やはり私として、まず一番大きな課題でありました平成20年度に発生いたしました廃棄物の問題、特に、日立製作所との責任問題への交渉、それから24年度以降の施設の維持管理、あるいは運転、そういったものへの取り組みの交渉、こういったものが、まず一番大きな課題でありました。それにつきましては、議会等の支援もございまして何とか23年度中の解決、それから24年度に向けての方向づけができたかというふうに思っております。

それから、福祉、医療関係におきましては、まず、市が補助している健康増進施設の問題でございます。これにつきましては、健康づくりセンターができたということもございまして、その役割と責任について、いろいろ相手方と交渉してまいりまして、ある方向性が出たというふうに思っておりますので、24年度については高齢者の福祉、健康増進の方向に、少しかじを切っているというふうに思っております。

それから同じく、福祉、医療の負担でございますけれども、これにつきましては、なかなか解決的には難しかったところではございますが、何とか24年度以降に向けて健康づくり21、あるいは介護保険の制度について、市民のニーズに合ったものになっていったのではないかとこのように思っております。

なお、負担については、なかなか増大を抑えることは難しいとは思っておりますが、今後さらなる研究を進めてまいりたいというふうに思っております。

それから接客についてでございます。

窓口の接客については、私としてはそんなにまずいというような方向ではなかったというふうに思っております。ただ部分的には、さらなる改善点がありますことから、アンケート調査等を実施して、さらなる磨きをかけていきたいなというふうに思っております。

以上、23年度について、重要課題について取り組んでまいったところではありますが、その評価については、私としてはなかなか答えることはできませんが、個人としては職員の協力を得たり、あるいはその他の協力を得る中で、精いっぱいやらせていただいたというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

産業部長の6月にご答弁を申し上げた内容につきまして、先ほど議員のほうからもご質問をいただいた項目が、大きくわけると3つございました。市と県のパイプ役ということ、また、私が県から参ったということで、外部の視点でこの糸魚川の地域の課題や魅力を見出して、施策立案に活用していくということ、それから、横の連携をしっかりと図っていくということでございます。

私といたしましては、県と市のパイプ役ということでございますが、さまざまな課題がある中で、所管事項の中でやはりウエートの大きなものとして、交通問題等がございます。日常的に電話でのやりとり、これはございますけれども、さらに細かい情報の収集、あるいは、こちらから意見を申し上げるということで県庁のほうにも直接出向いて、関係課としっかりと踏み込んだお話をさせていただいてきております。

また、観光のPR等に関しても、今まで市に参ってなかなかいわゆるPRといいますが、広報のチャンネルが少し限られているなという部分もございましたので、市の広報のチャンネル拡大について県のほうとも相談をし、また、県にお願いをしてチャンネルの拡大も図ろうということで進めてまいったところでございます。

それから地域の課題や魅力の発見と施策への活用につきましては、今、一番力を入れて取り組んでおるところが、やはりジオパーク戦略の構築と、その具体化に向けた取り組みでございます。

また、4月に再オープンをいたしました、いわゆるガーデン・ミュージアムの運営でございます。こちらなかなか大震災の発生というハンディがございますので、1年間の目標人数になかなか手が届かない厳しい状況で動いてまいったところでございますけれども、その運営の適正化につきまして、毎月役員の皆さんとの会議を開いて、進捗状況と計画の見直し等に取り組んでまいったところでございます。

また、横の連携につきましては、このジオパークの取り組みについて庁内でいわゆるプロジェクトチームというものを編成いたしておりますが、これについては関係課だけではなくて、さまざまなチャンスを通じて私どものジオパーク戦略プランの考え方がしっかりと理解していただけるように、庁内への連携を促進するための取り組みとして、このプロジェクトチームを動かしているところ

るでございます。

さらには職員の皆さんとのコミュニケーション、また、意思疎通をしっかりと図っていくためにオフサイトミーティング等の取り組みを通じまして、なるべく中堅、あるいは若い職員ともしっかりと話をする機会を確保し、そういったところで私の考え方についても、あるいは、私がどんな見方、あるいは発想して物事を進めているかというものについても、できるだけ中堅や若手の職員からも理解してもらえるように取り組んでまいったところでございます。

こうした取り組みの中で反省点といたしましては、パイプの部分につきましては、やはりまだまだパイプを拡大する、太くする余地もあると思いますし、市のいろんな課題について、さらに県のほうとしっかりとつないでいくという必要性を感じております。これについて、さらに取り組んでまいりたいと。

また、先ほど申し上げたガーデン・ミュージアムの翡翠園、玉翠園、谷村美術館の入場者目標が未達成であったということをしかりととらえて、さらなる入場者の確保の工夫、こういったものに取り組んでまいりたいと思っております。

この職員の皆さんとの関係については、職員の育成ということにも意識を置いて取り組んでまいったところでございますが、なかなかこの1年間という短期の間で職員の皆さん、あるいは市民の皆さんの期待にこたえられるような形まで達するのは難しいというところでございますけれども、この中堅の職員の皆さんをリーダーとして、しっかり意識を持っていただけるような形に刺激を与えていきたいというふうに思っております。このようなことを課題といたしまして、さらに取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それでは、田鹿総務部長の関係のほうから伺っていきますが、今ほど意識改革については、自分としては成果がなかなか見られなかったということであったんですが、私が見るところによると、やはりちょっとずつではあるけども、変化があらわれているのではないかと考えております。

その1例としては、私が前々から訴えていました職員提案、また、職場実践活動等の発表会というのを、ことし初めて庁内で実施したということが、やはりこれは1つの大変な取り組みのアピール、いろんな意識改革の一環ではなかったかと思われま。

ただ、これについては2月9日に実施したんですが、どうも庁内だけの職員を対象にした発表会、また提案での表彰式であったことから、ひとつ市民の皆さん、また、全国に対しても、この今回の一般質問でもみんなインターネットで配信がされておることから、この職場提案、職場実践活動発表報告会について、少し説明をしていただきたいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

職員提案と、それから職場実践活動の関係につきましては、今年度の市の行政改革を進める上で

の1つの目玉のような扱いで進めてまいりました。そういった中で各課・係から協力をいただきまして非常に多くの提案、提案につきましては83、それから職場実践活動につきましては47件ということで、多くの取り組みをしていただいたというふうに思っております。

今回の2月9日の発表会につきましては、こういったことを行ったということについて庁内のOJTの一環というような位置づけで、職員の皆さんに聞いていただくというようなことを主眼といたしましたが、市長、それから行政改革推進委員会の委員、これは市民の皆さんからなっている委員であります、そういった方々からもごらんをいただきましたので、職員にとどまらず外部の方からも見ていただけたということは、よかったなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

今回OJTの一環として、外部の人たちに見ていただいたということなんですが、私はもっともっとアピールをするべきだと。1つには市民に対して、すなわち地区公民館へ活動状況の冊子を配布したり、または回覧板とまではいなくても、各区のほうにもいろいろ配布をしたり、「おしらせばん」または広報、それから全国ということになれば、やはりこの状況をホームページで載せて、糸魚川市は、みんなこういうものに一生懸命頑張ってるんだというのをぜひアピールしていただきたい。また、いろんな雑誌や何かもあると思うんですけども、全国の各行政の中でも職員の実践活動とか何か、雑誌や何かいろいろとあると思うんですが、そこにこの原稿を送って、糸魚川市としては庁内挙げて取り組みを一生懸命やってるんだということをぜひアピールしていただきたい。

どうも新潟県、または糸魚川市というのは、その宣伝、アピール、積極性がどうも弱いような気がするんですが、それぐらいの取り組みをしてもいいんじゃないかと。そうすることによって職員もモチベーション、やる気ももっとも上がるんじゃないかと思うんですが、この推進についてはどのように考えておるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういった面も私はあるかと思うわけですが、しかし、目的は何かというところを考えますと、我々はやはり職務遂行上どのように意識改革、また、意識を高めていくのかというところが大切でございまして、そういったところを考えて、そういったところにもつながるということであれば、また取り組めばいいと思ってるわけですが、まずは職員の意識を高揚することが大切であり、また、そういったところを、やはり一体感を持った職員のモチベーションにつなげればいいという目的が大きいわけですので、その辺から今スタートしてるわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（斉藤伸一君）

確かに職員も今までとは違って、提案の件数も多く出てきた。それから優秀な提案者については商品も出した、それも図書券。私は前々から図書券ではなくて、もっともっと賞品としては、いろんなものを出してもいいんじゃないかという考えでおったんですが、それは市の職員の仕事だから、それは当然のことだと言えばそれまでなんですが、そうではなく、やはり意識改革、モチベーションを上げるためには、ただやれやれと言うだけでは長続きしない。賞品についても少し、図書券以外でも出すべきではないか。例えば権現荘の宿泊を出すとか、また、健康センターはびねすの利用券を出すとか何らかしら。確かに図書券というのは、素晴らしいことかもしれないんですが、そうすることによって糸魚川の施設や何かを使うような賞品も1つ考えてみてはどうかと、ぜひ検討していただきたいんですが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

ご提案ありがとうございます。

ただ、この賞品も公費を使っておりまして、市民の皆さんに不快とならないような品物という考えで、図書券を出している理由というのは、職員はもっと勉強しなさいという意味で、いろんな図書を購入しながら利用していただきたいというものでございます。

ただ、今の議員のおっしゃるような賞品も市民の皆様にも不快とならないものであれば、市の施設の利用拡大という意味では、検討すべきかなと思っておりますが、今まで公費を使うという観点から、図書券が一番市民の皆様にご理解いただけるという意味で、賞品として出してきたわけでありまして。ここらにつきましては、ご意見をまた内部で検討した中で、どんな賞品がいいのかは検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それから仕事目標、6月のときには総務部長が、やはり市民部、産業部、教育委員会も含めた各部長、事務の問題も含めた総合調整も含めたことでやっていきたい。それから市長は前々から部長制度のメリットというのは、各部のスムーズなる取り組み、調整ができるというのを訴えてきたわけですが、部長、今まで部長同士の横のつながりというものについては、どのように行ってきたのか。例えば問題が1つあれば、産業部まで田鹿部長が飛んで行って、これについてはどうだろうかとか、そういうことにするのか。それともちゃんとした会議として部長が集まって横の情報交換、取り組みについての意見交換、いろいろなことをするのかどうか、そこら辺の今までの調整というのは、どのように行ってきたのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

1つは市政運営会議という会議の中で、当然のことながら各部長同士の情報交換は、市長を中心にできております。それから、それぞれの部で問題が発生したり必要な情報については、私のほうからそれぞれの部長のほうに出向きまして各課の状況の確認、さらには部長からまた各課に指示をいただくような情報提供をさせていただいております。

市政運営会議があることから3部長が集まって情報交換するという課題は、ことし1年間はなかったわけでありましたが、いずれにしても大きな課題については、市政運営会議の中でそれぞれの情報交換をさせていただいておりますし、それぞれの部の中の課の情報につきましては、私のほうから出かけて行きまして、各部の部長に連絡をして、それぞれの部長が掌握している課の課長に情報伝達して、課題解決に向けてやっていただくというやり方でやってまいりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それから議会と行政の円滑化というものも、仕事目標の1つの中にあっただんですが、これについては今までやってきた中でどうであったのか、この意見を伺いたい。といいますのは、どうも議員の中からも議会軽視ではないかという声もあったり、また、各常任委員会とか特別委員会においても資料提供の不足があったり説明不足等、いろんな議会と行政の円滑化というのが少し、ちょっとスムーズにはいいはないんじゃないかという考えなんです。それと、そういう委員会においても委員のほうからも、これについてはもう少しやってくれという、そういう意見があったことについては総務部長のところに改善、これから庁内全体での委員会へ出向く姿勢として、それはどのように調整をしているのか、この2点について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

議会の円滑化という意味での調整役の部分については、私としても不満足な部分があったなというふうに思っております。さらに議会軽視、いろんな情報が提供されていないという部分については、情報としては上がっておりますし、私もすべての委員会には出席する立場ではございませんが、やっている最中には隣でちょっと情報を聞かせていただいたりしてる中で、やっぱりなかなか、それぞれうまくいっていない部分もあるなというのは承知をしております。

これは来年度の大きな課題だなというふうには思っておりますが、何とかそういう部分では議員の皆様、さらには議会事務局からの協力も得た中で、大きな問題にはなっていないというふうには思っておりますけども、一部では議会軽視、もしくは情報提供の仕方が非常にうまくなかったと。これは各部の部長も掌握しておりますし、今も掌握はしております。こちら辺の連携については、今後ちょっと大きな課題だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

田鹿部長は、ことしで定年なんですね。長いこと市の職員としてご苦労願って本当に大変でありましたけども、本当にもうあと1カ月もないわけですが、精いっぱい頑張っていたきたいと思うわけでありますが、今度の新しい総務部長に対しての今ほどの課題という問題についても、やっぱり申し送りはあるでしょうが、今回の場合については自分の仕事目標であったわけですが、この課題、自分が取り残した問題、これを新しい部長へ申し送り、仕事の申し送りはもちろんなんですけど、今回の仕事目標、一般質問においても課題だとかいろいろあったわけですが、その申し送りというのを、ちゃんとした形で残していきたいと思うんですが、それについてご苦労さんでしたということもあるんですが、ちょっと教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

当然のことながら、業務の部分については引継書の中に明記をして引き継ぎをしたいと思っております。私がやったことがそのまま、この後おいでになる部長がどう理解するかは別としまして、私がやってきたことだけは引継書の中にも明記して、後は後任になる部長が自分の立場で、それぞれやっていただければいいかなと思っておりますが、いずれにせよ我々としては職場の環境づくりが、大きな目標の1つとしてやってまいりましたので、そのことも含めまして、後任の部長にはしっかり引き継いでまいりたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

それでは市民部長のほうに移りますが、接客マナーについてアンケートを実施したということが出てきたわけですが、少しそれについてのアンケートによる効果、また、アンケートの内容についてはどのようなものであったか。今後、そのアンケートを生かして、どのように接客マナーの向上についていくのかという、そこら辺ちょっと説明をお願いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

アンケートにつきましては秋と冬にそれぞれ2回、10日間ずつ行わせていただきました。

まず、全体的な接客の対応なんですけれども、それについてはアンケートの結果では「よい」とか、あるいは「おおむねよい」という割合が、平均しまして82.5%、「普通である」といったのが16%、「悪い」あるいは「あまりよくない」というようなものが0.6%でありました。

この結果を見ますと、私ども先ほど申し上げましたように、接客態度につきましては、ある程度いいところにきてるんだなど。ただ、そのアンケートの中にもやっぱり「悪い」とか、そういったものもございまして、その辺が具体的には、まだきちっとつかめていないんですけども、自由記載のところを見ますと、やはりさらなるあいさつとか、ほほ笑みとか、より高度な接客といったものが求められているのかなというふうに思っております。

それから今度は、物理的なことで節電等もしていた結果もあるんですけども、ちょっとホールがやや暗いとか、あるいは夏場に暑かったというようなご指摘もいただいておりますので、来年度以降、節電の状況にもよりますけれども、そのつり合いをうまくやっていきたいなというふうに思っております。アンケートは、大体そんなようなところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

アンケートというのは、これは毎年やるというわけにもいかないと思うんですが、今回のアンケートをどのように生かしていくのか。要は、私が言いたいのは自分の担当課では、そのアンケートを生かしているんな取り組みを、改善や何かをしていると思うんですが、私が言いたいのは、その結果を生かした庁内全体での待遇、せつかくのこのアンケートの結果で、市の窓口の人たちが一生懸命になって取り組み、改善、いろいろなマナーの向上についてやったというのを、ただ市民課だけでなく庁内全体で、OJTの関係もあるんですが、こういう教育をぜひ生かしていきたい。せつかくのアンケートの結果、取り組んだものが、ただ今回だけで終わってしまうというのは、大変もったいないことでもあるということから教育、OJT、ぜひ行っていきたいものなんですが、この考え方についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

職員の資質向上についての質問だと思っておりますが、アンケートにつきましては、時間を私どもが工夫して作りながらできる限りやっていって、やはり職員が気づかない外からの改善点というものを、つかんでいきたいなというふうに思っております。

あと庁内全体への波及効果ですが、この辺については、まだ23年度につきましては、きちっとできていないところでございますので、この結果を取りまとめて庁内全体に知らせて、それぞれ職員に奮起をしていただくとともに、先ほど総務部長からもありましたように、私ども3部長を含めまして、どうやったら職員の待遇が向上するか、これも少し考えていかなければならないと思っておりますので、これはひとつ宿題ということで、24年度はどうしたらいいか、いろいろと検討してまいりたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（斉藤伸一君）

今ほど検討していくという答弁がありました。先ほどの福祉や医療、健康に対するサービスの提供及び質量とともに、やっぱり負担の問題についても研究をさせていただきたいという、どうも「検討」「研究」、こういう言葉なんですけど、私としてはもう少し踏み込んだ具体的なものが欲しいわけでありまして。

今ほど検討するという答弁ですが、どのように検討するのか、研究にしても、どのように研究するのか。要は庁内で宿題、指示をしてプロジェクト、小委員会でもいいですし、まとめ上げて、これについて部長の私のところにぜひ答えを持ってこいと、こういうことでいくのか、どうも今までも研究しますとか、検討しますというのは、なかなか実際にあらわれてくるというのがなかなか少ない。そういうことから今ほどの検討しますということと、先ほどのサービスと負担を研究しますという、この2つについてはどのように検討するのか、どのように研究するのかという、少し具体的なものを教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

先ほどの医療、福祉面での負担の減少と、そうさせるという方向性は、やはり健康づくりのための運動とか食生活の改善、あるいは最近、いろいろ新聞報道等になっておりますように病気にならないように、例えば事前にワクチン接種するとか、こういった方向性というのは、ある程度出たと思っております。

ただ、それを継続的に、どう具体的に実施していくかということが、今問われているわけがございますので、先ほど健康増進課長からも説明がありましたように、健康づくり21を基本にして、どうやって市民が健康寿命を延ばしていくかの運動の市民への浸透、あるいは食生活の浸透、そういったものを具体的に広めていく方法を検討していかなくちゃならないということで、方向性は大体出ていると思っております。

それから今ほどの接遇なんですけれども、これについては市民部としての評価は先ほど出ておるとおりでございます。ただ、それがじゃあ全職員にあるかといった点については、市民部長という立場ではなかなか難しいんですが、やはり3部長連携のもとに例えばそういう先進的な団体への研修だとか、あるいは講師を呼んでさらなる向上に努めるとか、そういったより具体的な向上策についてはどれが一番いいのか、あるいは費用的にもどれが効果的なのかは、やはり24年度以降の検討になると、そういったことでございます。

議長（古畑浩一君）

斉藤議員の質問の途中でありますけど、昼食時限のため暫時休憩とし、再開を13時といたします。

午後0時03分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

午前中に引き続き、斉藤議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

それでは、続きまして産業部長、酒井部長にお聞きいたしますが、やはり県から派遣されたということで、新潟県と糸魚川市のパイプ役が、やはり一番重要なこととなり、その仕事ということで精いっぱい発揮しとるといふ、いろいろ意気込みを聞かせていただいたわけではありますが、酒井部長としては1年を振り返ってみて、やはり数値的、パーセンテージ、自分自身として何%の状況であったかということ、まず伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

自分で何%というのは、なかなか申し上げにくい部分がありますけれども、気持ちとしては私は100%を目指して取り組んでまいっているところがございますが、ただ、実際にやれたことについて振り返ってみますと、そこまではとてもいけなかったなという反省もございます。ですので、ちょっと数字をどこまでとは申し上げられませんが、自分自身としては、なかなか十分どころまではいけなかったという反省があるということで、お答えさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

酒井部長の場合というのは、やはり産業部長という立場というのは短期の仕事になるわけであり、他の部長たちとはちょっと違った中で、短期間のうちに集中的にいろんな育成、教育、また、取り組みにしても、本当に激務な取り組みをしていかないと、達成ができないというわけではありますが、もちろん派遣されたものとしては、パイプ役がイの一番であるわけではありますが、そのほかにも自分自身も言ってるように外部からの違った目を、またやり方を糸魚川市に取り入れていきたいということで、やはりさっきも言いましたように短期であるから、余計にすごく教育、育成、指導も必要になるわけであると思っております。

そういうことから課長たちへの教育は1年振り返ってみて、また、来年度もあるわけですが、教育、育成を今まで以上にどのように行っていくのか。酒井部長はやさしい人であるから、もっと厳しい、しかりつけるぐらいのことが必要と思うわけではありますが、何回も言いますが短期ということがあり、集中的な取り組みが必要と思うわけではありますが、ぜひそこら辺の意気込みを聞かせていただきたいんですが。

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

暫時休憩願います。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

午後 1 時 0 4 分 休憩

+

午後 1 時 0 7 分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤議員。

23番（斉藤伸一君）

今ほどは私の質問としては、今まで1年間の評価と成果についての質問であったわけですが、今の質問については、私としてはその反省、問題を含めて、今後どのように取り組んでいくかというつもりで質問をしていたわけでありますが、やはり評価と成果というものも、もっともなことであるということから、酒井部長については1年間やった自分自身の評価について、それを踏まえた中で問題、反省、課題として今後どのように行っていくのか、そこら辺を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

この1年間の取り組みの中で、自分なりに部内の横の連携、また、全庁的な取り組みとしての例えばジオパーク戦略の検討、こういったものを実施しようということでやってまいったところでございます。

その中でやはり反省といたしましては、これは市の体制に限ったことではなく、県でも言えることでございますけれども、やはり組織の中でそれぞれの部署があるということで、視点が組織の中にとどまって、なかなかほかの部分まで目が行き渡らないということがよく起こります。私は部の中でも部内調整会議なり、また、それぞれの各部長さん方の仕事の中でも連携を図るような取り組みについて申し上げてきておるところでございますが、ここでまだその辺についての取り組みが必ずしも成果ができ上がったかと言われると、まだその途中であるかなというふうに考えております。

そういったことから、今実施をしておりますジオパークの戦略の取り組みにつきましては、ぜひその部分を念頭に置きながら、横の連携をしっかりと図る、あるいは自分の仕事の中で、目的の中で、これは何を実現するためにやっているのか。そういったものをとらえていただけるようなことをプロジェクトのメンバー、あるいはそこを通じて庁内の各部・課の皆様には理解をいただけるように、私のほうからも発信をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

私は今回、部長の仕事目標の件について質問しているわけですが、やはりこれも全国を見ますと数多くの市町村では、部長の仕事目標とか、部長のマニフェストとか、それから部課長の仕事目標などと、やはり言い方は違いますが、同じような取り組みで市の幹部職員がそれぞれのやっぱり目標を示して、目標達成に向けて取り組んでおるのは多くあるわけでありまして、このシステムについて、私は今回、一般質問、6月に部長の仕事目標を聞いて、今回3月議会、年度末で、部長の仕事目標に対しての自分自身の達成度や何かを聞いている。

このシステムを今回、私は一般質問で行ったわけですが、そうではなく、ちゃんとしたシステムとして、年度初めには市民に部長の仕事目標というものを公表し、それから年度末には部長のその達成度についてを、また市民に公表するという、こういうシステムをちゃんと決めて取り組んではどうでしょうかということをお願いしたいわけなんですけど、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に目的が明確であり、また、そういった形で市民の皆様方にもお示しできる点については、私といたしましても非常にいいシステムだなとは思っております。

しかし、それだけではないこともあるわけでございまして、その辺はまたどうするかというのも考えることも必要なのかなと思うんですが、例えば調整的な部分については、いろんな面で

今課題がある中で、そういった課題についても他課にまたがる点については調整もし、また、そして最大重要課題については、積極的に前線で行ってくれている部分があるわけであります。そういった決められた職以上に発揮するところもあるわけですので、そういったところをどのように見える化にするかということも、また大切なことなんだろうと思うんで、それも含めて少し検討させてもらいたいなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤議員。

23番（齊藤伸一君）

市長のほうから検討させていただきたいという今答弁をいただいたんですが、私が思うのは、市長や市会議員というのは地方公務員の特別職であり、任期がちゃんとあり、選挙で選ばれてきて、その選挙のときには公約、いわゆる自分になったときにはこうします、ああしますという、市民に対して約束をしてそれぞれ向かっており、そうでない、守られてない場合には、落選という憂き目もあるわけでありますが、部長というのは地方公務員の一般職の一番トップの職であり、やはり終身雇用ということで任期がないわけであります。だから無難にミスもなく、定年までおればいいということがあってはならんことではあります、やはり一般職のトップの職としては市長の施政方針や総合計画にのっとったものに対し、トップの部長としては担当課、部署の職員に対して、市長の意向を受けて、こうやるんだという市民に対する約束だと思ってるわけであります。

特に今回、糸魚川市としては、やはり行政管理から行政経営、コスト、スピード、成果を重視したもので推し進めているというわけでありますが、やはり経営責任の明確化や組織マネジメントの向上、及び情報共有化等々の改革につながることを、効率的な行政サービスについて部長は自分なりの仕事目標を年度初めに打ち出して、その部下である課長や他の職員たちに、自分たちの部下の職員たちにもちゃんと仕事のやり方、また、目標に向けて頑張ってもらいたいということが必要ではないかと、そう思うわけですから、こういうふうに一生涯懸命訴えておるわけであります。

今ほど市長のほうからは、いろいろ問題があるかもしれないけども、検討をさせていただくという言葉をいただきました。年度初めまで、もう少ししかありませんが、庁内で十分検討をしていい方向に、私の訴えている仕事目標を提示する、示すという取り組みについてを、ぜひやっていただきたいことを申し上げまして、私の質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、齊藤議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔2番 保坂 悟君登壇〕

2番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき 1 回目の質問を行います。

1、防災対策について。

(1) 防災エリアメールの拡充について。

NTTドコモ以外の携帯電話会社のサービス利用はどうか。

(2) マンホールトイレの整備について。

平成23年度の設置予定が延期されましたが、その後の対応はどうか。

(3) ゲリラ豪雨対策について。

地滑り監視強化と正確な注意情報発信のために、山間地の雨量計の測定場所を増やすべきと思いますがどうか。

(4) 豪雪対策について。

今年の豪雪の体験から、降雪が長期化した場合の生活弱者対策と山間地対策の改善点はどうか。

(5) 救急医療情報キットについて。

ボトルタイプの冷蔵庫保管型を採用し、糸魚川市の事業として取り組むべきと思いますがどうか。

2、子育て支援について。

(1) 保育事業について。

入園手続きの周知の仕方はどうか。

保育士職員の正職員と臨時職員の割合についての改善はどうか。

病児・病後児保育の進捗状況はどうか。

(2) 子ども医療費の拡充について。

入院・通院の助成対象をどちらも中学校卒業までにすべきと思いますがどうか。

子どものインフルエンザ半額助成の成果はどうか。

(3) 妊産婦支援について。

不育症について認識を高めるべきと思いますがどうか。

市内医療機関への保育器等の医療機器の支援はどうか。

(4) 妊婦・子ども連れ優先駐車場のマークの再周知について。

初回周知から時間を経ていることや降雪により位置が不明になるため、立て看板等の支援をすべきと思いますがどうか。

3、障がい者支援について。

(1) 重度障がい児者の支援について。

重度障がい者を持つ家族支援として、糸魚川地域に入所施設の新設や上越地域の施設拡充を推進すべきと思いますがどうか。

(2) 障がい者の就労支援について。

厳しい経済情勢の中、民間依存から行政主導で安定した雇用を創出する試みが必要と思いますがどうか。

(3) 障がい児を持つひとり親世帯などへの支援について。

家族の安否確認体制はどうか。

生活上困った時の相談体制はどうか。

成年後見制度の周知はどうか。

4、木質ペレットの普及について。

平成19年9月と平成20年3月議会で、地球温暖化対策、間伐の推進策、クマ等の鳥獣被害対策として、新エネルギーの木質ペレットの普及を提案してきました。

そこで、以下の点について伺います。

(1) 新年度予算に木質ペレット製造施設整備助成が新規事業として計上されました。これまでの消極姿勢から積極姿勢に方針転換した理由と木質ペレットに対する今後の期待度はどうか。

(2) 木質ペレットのストーブやボイラーの公共施設設置や市民への普及策はどうか。

(3) 木質ペレット産業を糸魚川市の目玉産業と位置付け、民間と協働で大きく育てる中長期計画を作るべきと思いますがどうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、a uとソフトバンクのサービスが3月中に運用を開始できる見込みとなっております。

2点目につきましては、費用対効果等を考える中で、より簡易な設備を含め検討してまいります。

3点目につきましては、市内には26カ所に雨量計が設置されており、市内全体の状況を把握できているものと考えております。

4点目につきましては、降雪が長期化した場合、市民も除雪業者も大変な労力を費やし、市民生活の確保が大変厳しい状況となることからボランティアの活用など、より多くの方で支え合うことが大切と考えております。

5点目につきましては、現在使われているカレンダーの活用について検証し、さらに有効的な手法を検討してまいります。

2番目の子育て支援のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

3番目の1点目につきましては、今のところ当市での施設入所の待機者が少ないことから、市単独の施設整備は考えておりません。今後、対象家庭の状況変化に伴い、他の自治体と広域的について検討してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、行政主導の雇用創出が難しいことから、民間事業所と連携をする中で就労確保に努めてまいります。

3点目につきましては、本人の障害の程度や家庭を取り巻く状況が個々に異なりますことから、ケースに応じて関係者との連携により安否確認や相談体制の強化、並びに成年後見制度の周知に努

めてまいります。

4番目の1点目につきましては、市内企業が木質ペレット製造に意欲的に取り組むことから、市といたしましても、この動きを支援することといたしました。今後は間伐材等の有効活用と地域産業の発展につなげてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、今後ペレットの需要を促進するため、ペレットストーブ設置に対する助成や、公共施設へのペレットボイラー導入なども検討してまいります。

3点目につきましては、地域の木材を有効活用する観点から、木質バイオマス活用推進計画の策定を進めており、民間事業者、林業関係者、行政が連携をして、取り組みを推進してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくご質問申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目につきましては、毎年11月を募集期間としており、広報、ホームページで周知をしております。

2つ目につきましては、正職員と臨時職員の割合については変わっておりません。

3つ目につきましては課題が多く、設置が困難な状況です。今後も引き続き、病院側と協議をしてまいります。

2点目の1つ目につきましては、助成対象を新年度6月より入院については高校卒業までに、通院については小学校卒業までに拡大いたします。

2つ目につきましては、対象者の約6割の方から接種いただいております。

3点目の1つ目につきましては、保健所や医療機関と連携を図りながら、不育症に対する認識の向上に努めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、保育器は現在のところ糸魚川総合病院では不足する状況ではないとお伺いしております。

4点目につきましては、冬期間の除雪等の問題もあることから、今後検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

まず、防災エリアメールに関してですが、今ほどauとソフトバンクモバイルですか、3月ということなんです、具体的に3月何日からか、その辺ちょっと確認のためお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

auとソフトバンクについては、1月末のサービス開始でしたので、現在、申し込み手続中です。したがって、3月いつかということは、こちらのほうではまだつかんでおりませんが、3月中にということで情報を得ております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

少なくとも3月中には、じゃあ実施をしていただけるということでもありますね。

エリアメールに限ったことではないんですが、災害情報や安否確認ができる通信サービスというものが、各民間で開発されておるかと思います。そこで市民にとって便利と思えるサービスについて、定期的に広報等で周知をしていただきたいのと、また、便利なサービスをコンパクトな名刺サイズといいますか、カードみたいなもので、そういった情報が利用できますよといった、そういったものをつくって周知していけばどうかと思います。もちろん、またジオパークのロゴを入れたりとか、そういう宣伝効果も図りつつ、そういったものも配布していけばどうかと思うんですが、その辺のお考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

非常に市民にとって便利な、そういういろんなメディア、そういう情報源につきましては、新しい情報を得ながら、逐次、取り入れていく考えでございます。議員が今いろいろご紹介いただいたものについても、またその事例を確かめながら、今後検討を進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

進めていただけるということで感謝申し上げます。いわゆるホームページ、広報等のみに周知していこうとすると、なかなか目につかない、また見ない方もおられますので、そういったカードをいろんなところにセットしていただいて、周知を図っていただきたいと思います。

続きまして、マンホールトイレの整備についてであります。

マンホールトイレについては、平成18年9月議会で提案させていただきました。糸魚川市下水道総合地震対策計画でマンホールトイレの採用を決め、平成23年度にアクアホールに設置予定となっております。ところが、今年の予算委員会で突如それが消え、予定は未定と言いますが、本当に耳を疑う思いをいたしました。今年の予算委員会では、23年度に設置要望を担当課は出すと答弁

され、昨年12月議会においても、市長は設置場所について検討中との答弁でした。一体この件についてどのように考えているのかというのがちょっと疑問なものですから、改めて詳しく状況を説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

おっしゃるとおりマンホールトイレにつきましては、地震対策の計画の中に23年度にということと載っております。さきの委員会の中でも説明をしてあるようでございますけども、その後、補助金のカット等がございまして、また、ご承知のように昨年3月には大地震があり、実際の下水道施設が寸断をされたというような状況を見ながら、より効果的な対策をとりたいということで、現在検討中という状態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そこで確認なんですが、当初この計画は、建設産業常任委員会等の報告にも載っておるんですが、当初そのアクアホールのマンホールの設置形態を、ふたの位置が50メートルあるものを10メートル単位に変更して、そこでトイレが使えるような形にしていくという報告になっております。そういったものを前提で今も考えていくのか。そうではなくて、もう全く別の角度で、またアクアホールという位置も全くゼロに戻して、また小学校だとかグラウンドだとか、そういったところも含めて総合的に今検討されているのか、その辺、ちょっと確認のために教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

昨年3月11日東日本大震災を受けまして、我々はそれを検証する中においては、これについては効果がないと受けとめさせていただきました。大震災になりますとライフライン、特に下水道は寸断されるわけでございますので、利用できなくなるととらえておるわけでございますので、それよりもっと効果のあるものを探していくべきととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今明確に、効果がないという市の判断だというふうに伺いました。

ただ、ありがたいことに昨年10月ですか、市が10月15日に開催された糸魚川ガス水道フェ

アで、簡易なマンホールトイレを紹介していただきました。それはマンホールの上にテントを張って便器を設置するもので、たしかあのおとき18万円ぐらいの価格だったかと思うんですが、避難所となる学校や公民館において、可能な場所に限るんでしょうけども、トイレが設置できそうなマンホールの上に、そういったものを置けばトイレができるわけですので、当初、多分考えておられた大規模なマンホールトイレの設置というのではなく、そういったものを据えつけができる平らな場所といいですか、人が出入りできる場所においては、そういった簡易なマンホールトイレを、1つ18万円ぐらいするんですけども、そういったものを備品としてそろえていくべきではないかというふうに思うんですが、その辺の考え方の変更はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林ガス水道局長。〔ガス水道局長 小林 忠君登壇〕

ガス水道局長（小林 忠君）

お答えをいたします。

先ほども申し上げましたように、簡易な方法を検討してるというふうに申し上げたわけでありませんが、昨年10月15日だったでしょうか、議員もお見えになられたガス水道フェアの下水道部門で、テントの中に簡易なトイレの便器をしつらえたものを展示をさせていただきました。そういったものは今ほどおっしゃったように15万円から20万円ぐらい、さっき18万円というお話もございましたけども、その程度で整備ができるということでございますので、それらも検討の1つの選択肢として、これから検討してまいりたいというものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

特別マンホールトイレにこだわっているわけではなくて、当然、簡易トイレ等、また備品としては、そろえていただきたいんですけども、ただ、やはり災害があった場合に、どうしても衛生上ということで、マンホールを使ったほうが衛生的によいという判断で、そういったことを申し入れしてるんで、総合的に判断していただければと思います。

続きまして3番目です、ゲリラ豪雨対策について。今、26カ所設置していただいているということなんですが、この件につきましては、山間地にお住まいの方が、雨の降る度合いというのが、広いエリアで以前は降ってた印象があるんですけども、最近は局部的にざっと降ると。そうすると、反対の山のほうでは降ってないということがよく見受けられると。それでもっと細かくそういった雨量計を設置して、随時、情報を流していただきたいという要望がありましたものですから、今回あえて取り上げたんですが、その辺26カ所で、今、大丈夫だという答えだったんですが、その辺いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

確かに現在の降り方は、スポット的というふうなとらえ方ではありますが、従前からそういう降り方もして、過去に災害をもたらしたこともございます。現在はこの26カ所、これにつきましては气象台、それから国土交通省、あるいは新潟県、もちろん当市の部分もありますが、この部分がそれぞれテレメーター、あるいはロボット気象計等々ですべてリンクされておりまして、非常に精度の高い警報システム、あるいは土砂災害に連携したシステムを組んでおります。

もちろん河川のほうも、これもすべて姫川、あるいは長野県のほうも連携しておりますので、そんな関係で、かなりスポット的な対応もできるようになっております。プラス気象庁が、かなり細かいことでスポット対応しておりますので、それもリンクしておりますので、相当精度の高い警報、あるいは警戒の準備をしていただけるようになっておりますので、これを当市のほうとしては早目、早目に情報提供し、あるいは早目、早目に避難につながるようなシステムをとっておりますので、現在のところ雨量計の数としては、現在の状況でいけるんじゃないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

現段階では大丈夫だと言っていたので、ただ、そういった疑問を持っておられる方もおられるので、年に1回ぐらいは、こういう取り組みをしているという何か紹介もいただければと思います。

そういう山間地の方も心配しておるんですけど、やっぱり地すべり巡視体制といいますか、このゲリラ豪雨のときの巡視体制というときは、当然、そういう雨量計で見るのもあるんですけども、人間が目視というか、目で見る確認というか、そういった体制は今現在どのようになっているのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

お答えいたします。

糸魚川市では地すべり巡視員というものがいまして、36地区を35人で4月から降雪前まで月2回巡視しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

それは地すべり対策ということで、ゲリラ豪雨みたいなときも同じような動きをされるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

お答えいたします。

気象によって必要なときがあれば回数をふやして要請しております。去年ですけれども春先に雪が多かったわけですけれども、そのときも回をふやしていただきました。

議長（古畑浩一君）

課長、今の聞いているのは豪雨のときなので、豪雨の場合にも同じ監視員等で対応されますか。

建設課長（申橋秀樹君）

失礼しました。豪雨といいますか、異常気象のときは、そのようにしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

では、月2回というのが定期的なあれで、状況によっては頻度を上げて出てくださいということですね。今ほどいろいろ答弁いただいて、ちょっと安心したんですけども、もし山間地に住んでおられる方に、場合によってはモニターみたいになっていただいて、雨の様子とかを連絡入れていただくような体制を組んだほうが、生の情報が入っていいんじゃないかと思ったんですが、現在、そういった取り組みとかはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

山間地の方々に、そういう降ったときのモニター的なことということのご質問ですが、当然そのようにさせていただいております。先ほど申しました、そういうシステムの情報をつかまえ、あるいは県のその警戒システムから早目に連絡が来ますので、そうなりますと大体5キロメッシュぐらいで、今そういう災害情報が逐次わかるようになっておりますが、やはりそれはシステム上でございますので、各地区の区長さま、あるいは防災関係者のところに電話いたしましてどうでしょうかということ、あるいは早目に気をつけてくださいという、そういう連絡をとりながら、早目、早目の行動をとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

追加してお答えさせていただきますが、今ほどお答えさせていただいたほかには、市内、急傾斜地の地すべりハザードマップというのがありまして、各地域にご配布させていただきまして、急傾斜地のところで危険なところをマーキングしてあると思うわけでありまして、そういうことで区長

さんをはじめそこに住んでおられる方も、やはり日ごろからそういったところに注意をしていただくようお願いもさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

特にゲリラ豪雨に対して先ほども言われてましたけど、河川とか下流域のほうにもドドッと水が来るわけですし非常に心配なものですから、今言った体制の中で得た情報は、特に安心メール等で早急に情報を流していただきたいことをお願いして、この件については終わります。

次に豪雪対策についてであります。

ことしの豪雪を踏まえて、雪が多い地域で暮らす高齢者世帯に対して今回新たに気づいた点、また、新たに対策を打つという明確なものがありましたら、具体的に紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

昨年未から大雪が続きまして、1月16日のあの大雪警戒本部、あるいはその2週間後には、豪雪対策本部ということで大雪に見舞われたわけでございます。

この中で本部長の市長からの指示でございまして、市民の人命を最優先に事故防止に努める、あるいは大雪対応につきましては、市民に疲弊感が出ているので声かけをしながら対応をするという新たな指示を出されております。

生活弱者対策につきましては、485名の除雪支援の対象者がおるわけでございますが、除排雪の支援につきましては、国のほうで定められた基準法の規定に従いまして、全庁を挙げて取り組んだものでございます。

なお、反省点としましては、民生委員の負担が大きかったとか、それから行政と地域、あるいは業者との連携にちょっと不備な点があった、あるいは不慣れな点があったということで反省をしながら、今後の対応をするということで全庁挙げて対応したいということが、今回の大雪を踏まえて反省している点でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そうなんですね。ことしの豪雪でいわゆる地区の区長さんや民生委員さんによる安否確認と、またこの屋根雪おろしの業者要請などを本当に積極的に行っていたというふうに伺っております。本当に感謝の気持ちでいっぱいあります。

ただ、そこで雪の降り方が長期化した場合、除雪業者もそうですし、今言った地区の役員の方、また、民生委員の方、ちょっと言葉はあれですけど疲れ切ってしまうような場合に、その後の対応

といいますか、そういったところを今後どのように考えいくのか、その辺、ちょっと確認のため教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

除雪対応につきましては、地域を挙げて取り組まなきゃならんということでございます。そういうことでありますので、民生委員あるいは地域の区長さん方をはじめとした役員さんと連絡を密にしまして、あるいは業者との連絡、連携をとりまして、除雪対応に当たらなければならないということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

今回の大雪につきましては大変それぞれ、特に山間部では大変な事態になったわけです。その中で1つ今回新たに取り組んだのは、やっぱり応援ボランティアを募集して、県の職員、あるいは市民の方、市の職員も出ましたが、そういう方から民間でできない地区の集会所とか公共的なもの、あるいは要援護者でないところの支援を、応援をしたという例がありますし、また、社会福祉協議会でもボランティアを要請して取り組んだ例があります。こういうような大雪になるとやっぱり個人の力、あるいは除雪業者の力では、間に合わない場合が当然出てくるわけですので、やはりその雪の降らないところの力というものがあれば、そういうものをうまく活用しながら、市全体での安心につなげるようにするというのを、今後も取り組んでいくべきだと思っておりますし、やっぱり今回の応援ボランティアというのは大変いい例だと思っておりますし、これを多く広げていって、いろんなところで生かしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

私の聞き方がよくなかったかと思えます。改めて言います。

ことしの冬は区長さんや民生委員さんが、本当にひとり世帯とか生活弱者の方を見ていただいたと思うんですね。こういうのがずっと長期化していきますと、区長さんとか民生委員さんだって、自分のお家のこととかいろいろあるわけですね、雪対策とか。そういったときに本当に疲弊してしまった場合に、その後の対応として行政としてどういうサポートをしていくのか、安否確認はどうするのか、業者要請はどうするのか、そういったところのフォローを考えているんですね。それは問題ないとお思いですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

特に民生委員、あるいは地区の区長さんには、いろいろなご支援をお願いしてるわけですが、やっぱり自分の家、あるいは地域全体での困ったという例がきっとあるわけです。そういうときは市の職員が全体の中でやっぱり手分けをしながら情報収集、あるいはいろんな声を聞く中で取り組みが必要だと思ってますし、今回は特に根知の地域で集中的に降ったわけでありますので、1週間ほど職員が公民館に出向きまして、そこで在駐しながらいろんな情報収集してきております。こういうようなことが必要であろうというふうに思っておりますので、今後、そういうまた事態になれば、やっぱり職員を手分けする中で、地域の負担を軽減するように努めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

要は、そういうことだと思います。職員の皆さんも大変かと思うんですが、そういったフォローをぜひやっていただきたいと。また、そういうときの対応として、明確化していただきたいと思えます。

次に、ひとり暮らし、また、高齢者世帯、また、介護を伴う高齢者世帯、あと女性だけの世帯など、今回の国の災害救助法ですか、これに該当しないようないわゆる生活弱者対策として、今後どのように考えていくのか、その辺をちょっと伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

災害救助が生まれて、要援護者を対象にした施策は、国あるいは市の中でも出とるわけですが、やはりそれらに乗られなかった、それらに準じたような世帯は多く出ております。現実には出たわけでありますので、これらについては今後どうするかということは、今、福祉サイドでまとめておりますので、今後、そこら辺の対応というものを検討していきたいというふうに思っております。

かなり今回、特に山間部に集中したことから、いろんな声が来ております。いわゆるそこで行政ができる範囲というのを、しっかり見きわめる必要があるんだろうと思っております。今回の事例をしっかりと分析する中で、まとめていきたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

また、同様になんですが、救助法に該当しないというか、人命救助に重きを置いているための救助法であります。いわゆる山間地でも農業者は倉庫や小屋があって、コンバインだとか乾燥機だとかいろいろ入っている、そういう倉庫等については何も援助がなかったかと思うんですね。そうい

ったものに対する今後の取り組み、考え方というのは、どういうふうにされていくのか、その辺を、空き家も含めてそうなんでしょうけど、そういった建物に対しての考え方としてはどうされるのか、その辺をお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

今回の救助法の適用には、やはり人命救助ということで住家に住まわれている方々の家庭の屋根雪が中心でございます。ただ、空き家の支援でございますが、隣家、あるいは通行に支障のある危険性のあるものについて認められているというのが、救助法の内容でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

空き家とか農業施設のことについては、特に、空き家についてはここに住んでないということ、あるいは所有者に連絡しても、なかなか屋根雪等の実施ができないというのは、いろんな角度から問題が起きております。そのことからやっぱり国のほうに、これらの抜本的な改正ができないかということ、市のほうからも国に要望したところであります。

それから農業施設につきましては、やっぱりいろんな角度から見なきゃならんというふうに思っていますが、ハウス等の損害が出るとのも実例でありますし、どのような施策があるのかというのは、また農業サイドで検討して、あるいは制度的に補償的なものもあるわけですので、それらをあわせながら検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

おっしゃられるとおりかと思えます。今回の現実問題を踏まえて、また国、県、また市と連携をとりながら、そういった方の補償ができるような形で検討していただきたいと思えます。

次、山間地のひとり暮らし世帯や高齢者のみ世帯で、長期間、雪かきに追われますと疲労とストレスがたまっていきます。豪雪になればなるほど孤独感とかも芽生えてきます。そこで、そういった方のストレスや孤独感を解消するために、先ほどもちょっと触れられましたが、職員による電話による声かけとありますが、安否確認も兼ねて、そういったことも長期化した場合には対応していくべきかと思うんですが、その辺もちょっと明確に、そういったものの文言を載っけていただきたいと思うんですが、その対策としていかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これについては、なかなか1つの明確なマニュアルというのはいえないと思っております。

これだけ広域的な市域であるわけですので、状況を見ながら的確に判断させていただくことでなかろうかと思っておりますし、今回もさせていただきましたが、これからもやはりそれが必要だろろうと思っております。ただ単に、民生委員や区長さんをお願いするだけではなくて職員が小まめに、そしてまずは電話で、その次には回って、ある程度スピーディーな対応をなくちゃいけないもんですから、急ぐときには電話、その次にはすぐ体で回って状況を聞いて回るという対応をさせていただいてるわけですので、前にも1回やりましたし、今回も対応させていただいてるわけですので、市の職員の1つのもう作業手順になっているととらえていただいても結構でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今、市長からこの議場で、公の場で明確に言っていただけたので、私はそれで結構かと思えます。今後もそういった臨機応変な対応を、ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、（4）救急医療情報キットの普及であります。

これも昨年12月議会で、社会福祉協議会が取り組まれているカレンダーに救急医療情報を書き込む形のものを、75歳以上の方に配布しているということを紹介させていただきました。結構な取り組みだと思っております。ただ、よくよく考えますと高齢者に限らず必要と思われる方には、私は用意すべきだというふうに思っております。社会福祉協議会の事業にとどめず、市として救急医療情報キットの配布事業を立ち上げるべきだと思います。

また、現行の75歳以上の高齢者という枠組みよりは、希望する高齢者、障害者に配布できる形をぜひとっていただきたいと思うんですが、その点いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

これが昨年度配らせてもらった社会福祉協議会のカレンダーでございます。この裏面には救急情報を記載するというごさいまして、お尋ねの救急医療キット、これは冷蔵庫に入れるものでございまして、市販されているものでございます。これらの情報を救急隊の皆さんにお示するという手段でございますが、問題は、この裏面なり内容に書いていただけるかどうかというのが問題でございます。自分の情報を救急隊の方々に示す、このことにつきましては、これからまた関係する方々のご指導をいただきながら書いていただくというごさいますが、ただ、この対象年齢につきましては、今、社会福祉協議会で歳末慰問ということでの75歳以上、ひとり暮らしということに限られております。

議員がおっしゃるとおり、これはそれだけの限られた方々のためではございませんし、できるだけ幅を広げるような対策というの今後検討していかなくやならないのかなと、自分の身を守ってもらうための対策として、行政支援が必要かなというふうな思いもあります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ボトルまで用意していただきましてありがとうございます。

私は全国的に広がりを見せている方式が、このボトルタイプであり、冷蔵庫に保管するということが、一定のルールとなるわけですね。カレンダーですと、やっぱりその人が張る場所というのは、それぞれ場所が違って来るわけですし、安定しないと思うんですね。冷蔵庫保管であれば、冷蔵庫は比較的見つけやすいし、どこのご家庭でも大体用意してあると。当然、冷蔵庫の表にも、ここにキットが入ってますよというシールを張るわけですから、そちらのほうに駆けつけた消防士や、また自主防災組織の方たち、また地区の役員さんも見つけやすいということから、この提案をさせてもらっているの、書いてもらえるかどうかかわからないと言いましたが、ぜひやっていただきたいと思うんですね。それで、その反応としてなかったというのであれば、それはそれだと思います。まずやっていただきたいと思うんですが、その辺、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

情報を示すのが第一目的でございますので、当然これを書くように指導するのも私どものほうで、これから努めたいと考えております。関係する職員、スタッフに、そのように申し伝えたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

具体的にどうされるのかがちょっと見えてこないものですから、カレンダー方式でやるのか、ボトルのそれでいくのか、そうじゃなくて、とりあえず書いてもらうことに取り組むのか、その辺、ちょっと明確に言ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

両方ともやはり書かなくちゃいけないこと、そしてまた一長一短、両方にはあるということであるわけですが、当市はカレンダーで今取り組みをさせていただいたわけですので、毎年やっておる方向の中で、どのような弊害があって、どのような対応のまずさなり、また、どういうものが考えられるかということの中で、今、ご指摘いただいている点についても、やはり有効な手段だと考えておりますが、そのあたりは糸魚川の人たちにとってどうなのかということも、いろいろあるかと思うわけですので、そういったところを見ながら、よりいいほうにもっていければと思っておるわけですので。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

じゃあ今は社会福祉協議会のそのパターンでやると。書いてもらうかどうかは、一応また声かけをしていただいいていくということだとふうの確認させていただきました。また随時、いろいろ提案させていただくかもしれませんが、またよろしく願いいたします。

続きまして、保育所事業のほうに移ります。

入園手続の周知の件であります、11月に1カ月の期間をかけて受け付けされてるかと思うんですが、いわゆる出産のタイミングや、場合によっては転勤などによって申し込みがおくれる場合があると思うんですが、やはりそういう場合は、最初に申し込まれた方が優先されるというふうな書き方になっておりますが、その辺は何とか融通が効くような対応というのはとれてるものかどうか、その辺、ちょっとお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

入園を希望される方には、さまざまな事情があるわけですので、一応11月いっぱいまでを次年度の入園手続をしていただく1カ月間ということにしておりまして、そのほか事情によって入園を希望される方については、随時、こども課内、あるいは各保育園等で相談に乗って、適宜対応させていただくということにしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

それはそれでわかりました。

もっと基本的なことをちょっと確認したいんですが、この保育園の入園手続の案内というか、この文書なんです、これは母子手帳を交付するときに、一緒に保育園のこういう案内とかというのは、お渡ししてるもんですか。それとも、あくまでも広報のみという格好になっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

教育長からも答弁させていただきましたように、広報による入園案内と、それからそれぞれホームページで示させていただくことが基本になっております。あと保育園等へ行っていただくと、案内がいつでも手に入るような形になっておりますので、相談を受け付けながら入園の手続、申し込みをしていただくということで対応しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

11月に募集をかけるとき、広報とホームページということなんですが、保育園に実際に入園するかどうかは別としまして、やはり糸魚川市の取り組みとして保育園、幼稚園も入れてもいいかと思うんですが、母子手帳を交付する際に、糸魚川市は11月にこういう受け付けをしてるみたいな、また、若干の保育園、幼稚園の概略を入れたものを渡したほうが、私は保護者にはよろしいんじゃないかと思うんですが、その点、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

ご指摘いただきましたように、子どもが成長していくところの見通しをもって、いつごろこういう手続が必要ですよということについては、周知していくことが確かに大切なことだと、そう思っております。できるだけ保護者にしっかり伝わるように、検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

検討ではなくて、紙ベースで挟んでお渡しするだけかと思っておりますので、ぜひ実施をしていただきたいと思います。一応確認のためお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

いろんな機会をとらえて、そういった入園手続の申し込みとか、そういった情報収集もさせていただいております。例えば子育てセンターへ皆さん出向くわけでございます。お子さんをお持ちの方々は行って、そこでいろいろ情報交換をしたりもいたすわけでございますので、そういったとこ

るの中で、じゃあどこの保育園へ行くのとか、また、どこがいいのかというのは、やはりそういう中で情報を出すようにさせていただいてますので、いろんな機会をとらえて、議員ご指摘のような形をとらなくちゃいけないと思うわけでございますが、そのようなことで、なるべく情報収集は早目にさせていただいて、その対応なんかに適応できるようにさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今、市長が言ってくださったとおり、そういう対応を小まめにさせていただく理由は、やはり希望する保育園に入れるかどうかということなんですね。現状、第1希望から第3希望までとっておられるかと思うんですが、ほぼ当市の場合は、この第1希望どおりに入園されているのかどうか、その辺、ちょっと状況をお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

入園希望者については、ほぼ希望されるところへ入園していただいておりますが、ただ、住宅建築等の関係上、今、東保育園が非常に申し込みが多い状態が出ております。それらについては、できるだけ受け入れるようにしていきたいと思いますが、調整をさせていただくという形で、親御さんと話をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

そこで今度、職員の配置とかにもなってくるんですが、最近は本当に未満児保育といいまして、生まれてもう1歳、2歳の子も預かるような体制で、保育士の抱える人数というのは、たしか子ども6人に1人でしたかね、そういったルールがございます。希望どおりというのは、そういう定員のところまで管理しなくちゃいけないわけで、そういったところの今トラブルとか、そういったものはなく順調に入園ができてるかどうか、その辺、確認のために、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

ご指摘のように受け入れ人数と、それから職員の配置というのは、非常に関係があることでございます。今の時点では受け入れ人員というのは、その施設の容量を中心に、どれだけの定員が可能

かということに基づいて考えております。受け入れた場合については、それに見合う職員を配置するというので取り組んでおりますので、職員配置に係るトラブルはないものと認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今、具体的に東保育園の例がありましたけども、実際、ほかに移っていただくというケースは、やっぱり最近多いというふうにとらえてよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

各保育園には、先ほど話が出ましたように定員というのが決められております。糸魚川の保育園、幼稚園を合計しますと、十分全員が入園可能でございます。ただ、仕事の関係等で、ある園に入園したほうが、親御さんにとっても非常に仕事がしやすいとかというような面がございます。かといって、定員をかなり超えて多く入園させるということは、子どもの安全・安心という面からも非常に問題がありますので、やはり定員を少し超えたぐらいの形は受け入れられるけども、それ以外は保護者の方と話をしながら、可能であれば園を調整をさせていただくという形で進んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

個々にいろんなケースがあって、難しい面もあるかと思いますが、でき得る限り利用者の声を受けとめながら、定員はありますけれども、職員の配置等でぜひ対応を心がけていただきたいと思います。

あともう1つ気になっていることがございまして、いわゆる保育園の入園基準というのがありますが、この入園手続で利用したい家族の生活実態というのがありまして、それと入園基準が少しななんですけども、かみ合わないがために、保育園を利用できないというケースがあるように伺っております。

そういった場合には、少し行政のほうで臨機応変にその辺の幅というか、持たせて、入園を今されてるのかどうなのか、その辺。具体的に言うと、満18歳から60歳未満で、保育することができる祖父母などの親が同居している場合には、入園できませんと明確にうたっておりますよね。ただ、アルバイト的に祖父母が働いている場合だとか、ちょっといろんな細かなケースがあるんですけども、そういったときに、ちょっと大幅な対応というのをとっていただけているものなのかどうか、その辺、ちょっと確認をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

今、議員のおっしゃるとおり、同居していても例えば祖父母の方々が少し体調を崩されるとか、いろんなケースがあります。また、仕事の関係等もあって、そう全部面倒を見れないというケースもございます。そこら辺については、その事情をよく聞き取りまして、その事情に配慮しながら入園を考えるとという形で対応しております。一応の基準としては、保育に欠ける児童の入園ということを原則、その原則は原則でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

よろしく願いいたします。

続きまして、保育士の正職員と臨時職員の割合についてであります。先ほどの答弁では、変わりありませんという答弁だったんですが、平成23年度では正職員が46人、臨時職員が92人だったかと思います。割合が1対2の割合でございます。日本一の子どもづくりを目指す糸魚川市として、保育士の正職員化を大胆に行うべきというふうに私は考えております。

背景には、先ほど言った未満児保育、延長保育、休日保育、病児・病後児が今検討中ですが、今度、発達障害の対応、核家族化による子育て不安の解消など、すごくニーズが細分化されているわけで、保育士が担う責任というのは、ますます役割が大きくなってきているかと思うんですね。そういう意味で、やはり正職員として対応していただくことが、やっぱり保護者への安心感とか、また、信頼性というのをどんどん高めていくと思いますし、また、臨時職員の方にも、ぜひ正職となって頑張ってもらえればなという個人的な思いがあるんですけども、それもまたいろんな事情があって正職にならないで、臨時で対応されてる方もおられるかと思うんですが、なるべくこの割合を、正職員の割合を大きくしていただきたいと思うんですが、その方向性についてはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

総務課長（渡辺辰夫君）

保育士の正職員の増加ということでありまして、保育士、それから幼稚園教諭につきましては、定年までお勤めにならないで、早期に退職される方も結構おられるということで、我々もなるべく正職をふやそうということでの採用を図ってきておるところではありますが、そういった事情等々もありまして、一気にふえていかないという状況であります。

また、今ほど言われますように未満児保育であるとか、障害児、それから延長保育とか、いろんな保育ニーズがふえてきているということによりまして、すべてをなかなか正職で対応するということになる、大量な採用ということになりますので、また、そういう一定の年齢のところにとどまるというようなことも、避けながらの対応をしていく必要があるのかなということでありまして、今後も当然正職化についても進めてまいりますけども、一気にというのは、なかなか難しいという

状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

本当に子育て支援の最大の事業かなと思っておりますので、今ほどまた努力をしていただきたいと思えます。

次に、私、ここに病児・病後児保育の進捗と書かせていただいたんですが、当市は平成22年3月策定の糸魚川市次世代育成支援後期行動計画の中の新規事業として、平成26年までに1カ所実施するということがきちんと載っておりますので、今の具体的な進捗状況を、もう少し担当課からご説明いただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

来年度、ファミリー・サポート事業というのを立ち上げております。これは受け入れる家庭と、それから預けたい保護者と、その形を市が担当しながらその組織をつくっていくという、その中で病後児保育も可能になっていくのではないかとするために、来年度、調査研究、それから、それらの募集のために立ち上げております。

また、民間の中にも未満的に預かる組織もできてきておりますので、そちらのほうも支援しながら、あわせて病後児保育のほうについて確認をしていきますが、ただ、我々としては、引き続き糸魚川総合病院の中で開設できないかを働きかけて、実現を目指していきたいと、そんなふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

いろいろ委員会とかの報告とかも受けているんですが、なかなか厳しい状況というのはわかるんですが、この26年度までに1カ所実施というのはいかがなものでしょうか、約束どおりできそうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

ぜひ実現に向けて努力していきたいと、そう思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

以前だったかアンケートとか、いろいろな聞き取り調査の中で、なかなかニーズとかがあまりないというような答えをいただいたようなことがあるかと思うんですが、ただ今後やっぱり、特にひとり親で、勤務の都合であったり、また、言いにくいんですけど給料体系といいますか、日給月給みたいな形だとか、休むとどうしても所得に影響がある方とかがおられるわけですね。そういった方が、お子さんが病気になったときにどうしても預けて、また、職責上、行かなきゃいけないこととかもあるので、ぜひ積極的に設置に向けてご努力をいただきたいと思います。

続きまして、子ども医療費のほうの拡充についてのほうであります。

今回、本当にちょっと、この質問の書き方が失礼だったかなと思うんですが、入院、通院をともに中学校卒業までって、私のそれは希望だったので、こういう書き方をさせていただいたんですが、入院のほうは高校生までと、私が想像以上にもうぼんと上げていただいて、本当にありがたいなと思っているんですが、通院のほうは小学校6年生までということで、今回、私の中では中学校までと、両方並べて考えていたもんなんですが、今回、高校生と小学生のところまでという、この背景というか、どういう決め方をされたのか、そこをちょっと教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

通院については、とにかく少しでも子どもたちの通院にかかる負担を軽減させたいということから、小学校卒業までという段階を1つ、他市町村並みのレベルまで上げさせていただきました。今、県内では72%の市町村が、大体、小学校卒業までという形で実施しております。まず、通院については、1段階レベル上げさせていただいたということです。

入院につきましては、数は多くないんですけども、入院にかかわる個人的な苦痛、負担というのは非常に大きいものがありますので、そういう方々に配慮しながら、12歳から18歳という形を考えていますので、入院については、そこまで拡大させていただいた。通院についても、なお今後検討していきたいと、そんなふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

質問項目でこういう書き方をしましたけど、私は大賛成ですので、本当によくやっていただいたという、先進的な取り組みかと思っております。大変評価しておりますので、ぜひできれば、また徐々に拡大、拡充をしていただければと思っております。

次に、子どものインフルエンザの半額助成で、これに関しては私自身、ずっと推進してきたものとして、今回なくなるというような報告だったかと思うんですが、実際、その成果としまして、ことしに関しても、2月19日までの県が出してるデータなんですが、糸魚川エリアでは比較的、このインフルエンザの感染率というのは低く抑えていて、非常に優秀かと思うんですが、これもイン

フルエンザの半額助成が、かなり成果を上げているんじゃないかというふうに私は思っておるんですが、その辺の見解といたしますか、効果というものを、どういうふうにとらえておられるか、ちょっとお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

先ほど教育長のお答えでもありましたように、対象者の6割が接種しているという現状であります。発生につきましては、ここ数年の経緯を見てみますと、ことしはまだ、この後3月いっぱいが残っているわけですが、例年の形でいけば大体400弱ぐらいの罹患の形になるうかと思えます。

ただ、私たちは成果として聞かれましても、接種したその子どもが発病していないということは言えないわけですし、ただ、ことし言えるのは爆発的な感染、広がりはないということでありまして。それは昨年も爆発的な広がりはないという状況があるということとは言えると思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ただ、全国的に見ても非常に低い値で抑えられてるというふうに思いますし、予防接種ですから、やはりより多くの方に接種していただくことによって、効果が上がるというものでございます。今回、取りやめになるというのは非常に残念なんですけど、先ほどの医療費助成のほうで拡充していただいていることも考えれば、厳しい財源の中で、それなりの行政も決断をされたというふうに私は認識しております。ただ今後、うがい、手洗いの励行というか、その徹底をぜひやって、インフルエンザがこれ以上広がらないようにご努力をお願いいたします。

次に、妊産婦支援についてであります。

不育症の治療支援についてであります。糸魚川市は不妊治療等に力を入れて、それは大変評価しております。しかし、不育症については、まだまだ市民に周知されてない面があるかと思っております。不育症は妊娠はするんですけども、流産や死産を2回以上繰り返し、結果的に子どもを持ってないという状態を言います。

不育症の原因には、さまざまあるんですけど、その中で抗リン脂質抗体症候群やプロテインS欠乏症については、薬剤なんですけど、ヘパリンの投与で出産が可能になるケースが多いという紹介がされております。この治療方法については、ずっと保険適用でなかったんですけど、私ども公明党で国会に取り上げて、ことし1月1日より保険適用になったということも含めまして、そういった周知と、もう一つ、この不育症の患者さんや家族は、流産とか死産は病気でないという認識が強いんですね。そういった意味で、不育症というのは病気なんだということも含めて、ぜひ市民への周知を図っていただきたいと、そういう思いで今回取り上げたんですけど、その辺の周知の徹底、取り組み、その辺、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

不妊症という病名に対して、この不育症というのは、まだ一般的にはそんなに普及はしていないし、知られてないというふうに考えます。したがって、こういうのは1つの病気なんだということ、その当事者が、身体的にも精神的にも苦しんでおられることを、少しでも周囲の方から知っていただくためにも、普及活動に努めてまいりたいと、そんなふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

じゃあ続きまして、妊婦・子ども連れ優先駐車場のマークの再周知についてであります。

これは市の取り組みとして、そういう弱者に対する温かいサポートということで行っております。今回、雪がたくさん降りまして、せっかくのマークが見えないケースがございます。各店によっては、これぐらいの紙面で、レジのところに張っていただいているところもあるんですが、できましたら、のぼり旗がいいのかどうかちょっとわかりませんが、そういったものをマークとして掲示して、下に協力店のお店の名前を入れてやるとかして、周知をさらに広げていただければなという素朴なアイデアなんです、その辺の取り組みはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり、雪が降ると駐車場にシールを張っても、なかなか見えなくなってしまう等のことがあります。同じようなものに、障害者駐車スペースを確保しているものがございます。そのほかに子育て車のスペースというのは、なかなか業者さんにとっても難しい部分がありますので、それと一緒にして弱者のためのスペースということで、今後設置していけないか、あるいはそれにかかわる1つの看板の中に同時に入れられないか、そんなところをこれから検討して進めてまいりたいと、そんなふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

ぜひ、いい取り組みかと思しますので、推進していただきたいと思ます。

続きまして、障害者の支援についてであります、先ほど就労に関して、なかなか行政主導でやっていたかというのは難しいということだったんですが、私としましては、今後、市が取り組んでいくであろう一般廃棄物の処分場の施設であったりとか、あと今、木質ペレットということで、

製造会社に支援をしている背景上、間伐材のこういう作業とか、また、ペレットを製造する仕事だとか、何かしらそういうところに障害者が雇用できる場所がつかれないか。もしくは、よく倉又議員ともお話をさせてもらっているんですけど、糸魚川を花いっぱいにしたいねという話をされていて、そういう行政からのまちづくりとして委託事業みたいな形で、谷筋ごとに決められた花を植えていくとか、宇宙から帰ってきた白ユリを花園にしていくとか、そういったものを行政の委託事業として、そういった障害者の方とか、そういう団体とかでやっていただくとか、そういうちょっとスケールが大きな話かもしれませんが、そういったものを研究し、検討していただきたいと思うんですが、そういった発想、考えというのはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

行政として、いろいろな情報を得ております。行政主導型ということでございますが、今現在、民間事業所と連携しまして就業支援をしているということでございますので、いろんな情報を得ながら、それを生かした就業支援をしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

今ほどの答弁がそうなんですけども、いろんな総合計画とか、いろんなものについては、何々に努めます、努力しますという文言が本当に並んでるんですね。そうではなくて具体的に、こういうことをしていくと。先ほども情報医療キットじゃありませんけども、やらないうちから何か判断するんじゃないかと、何か動き出していきたいという、そういう思いがあるものですから、もう少し具体的な取り組みをしていくというような答弁をいただきたいと思うんですが、その辺。結果は問いません。ただ、やるというところに重点を置いて、お答えいただければと思うんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

行政が主体になって、なかなかそういうところは今できないと思っております。やはり短期間で、いろんなことをやることはできるんですが、しかし、就労ということになると、やはり長期化するわけですので、そういったところはやはり民間の皆様方と、どのように進めるかというのが大事だと思っております。

今そういう中においては、市内の企業の中の皆様方も少しお取り組みいただいているわけがございます。その辺から拡大していけないのか、また、今ご指摘の点についてはどのような形ができるの

か、これは民間のやはり企業、また団体の皆様方からもお取り組みいただかないと、行政だけでできるものではないと思ってるわけでありまして、非常に障害をお持ちの皆様方におかれましては、いろんな状態があるわけでございますので、なかなかそこら辺もまた難しいところであるわけでございます。一律的なところではないところもあるわけでありまして。そういうところが、やはり一番課題だろうと思ってるわけでありまして。今進めていただいている方々と、やはり一番調整に苦労するところが、その辺だろうということであるわけでありまして。しかしながら、そういう努力はしていかなくちゃいけないだろうと思っております。

市立の小学校、中学校、そしてまた高等部の障害者の方々とか、市内にはいろんな関係する、またいろんな面が出てきとるわけでございますので、そういったところはとらえていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

次、障害児を持つひとり親世帯への支援についてであります。どうしても行政は申請主義になっておりまして、声がかからないと相手の状況がつかめないという形になっておりますが、障害児を持つひとり親世帯に関しては申請主義ではなくて、行政から安否確認、生活上困ったことはないか、また、後見制度等についての周知というのをぜひ行っていただきたいと思うんですが、その点いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

行政のかかわりはもちろんのことでございますが、相談支援事業者、あるいはサービス事業者、民生委員等の連携によりまして、今後、生活状況の把握に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

保坂議員。

2番（保坂 悟君）

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、保坂 悟議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を2時40分といたします。

午後2時29分 休憩

午後2時40分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、甲村 聡議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。〔1番 甲村 聡君登壇〕

1番（甲村 聡君）

発言通告書によりまして、一般質問を行います。

1、地域づくりと融合する糸魚川ジオパーク戦略プランの取り組みについて、市長の見解を伺います。

ユネスコが認定する世界ジオパークについて、日本において先駆けて糸魚川市が、米田市長を先頭に取り組み、世界認定を受けました。最近、ジオパーク認定に向けて取り組まれる地域が増加していることは喜ばしいこととあります。また、ジオパーク推進事業や整備事業に積極的に取り組み、ジオサイトの整備の促進がされていることも評価するものであります。交流人口拡大プランやジオパーク戦略プランの具体的展開により交流人口の拡大を図り、地域活性化や地域経済、関連企業の活性化につなげるとしております。

また、本年度に糸魚川市総合計画後期基本計画、地域づくりビジョンが策定され、地区の将来像に向かって今後の地域づくりや自主活動等の具体的な地域づくりプランの策定を各地区に呼びかけていくとしています。

私は糸魚川ジオパーク戦略プランと、地域住民が主体となり策定される地域づくりプランが融合する取り組みを行うことで、糸魚川市の活性化に寄与するものと考えことから、次の事項について市長の見解を伺います。

- (1) 糸魚川市後期基本計画におけるジオパーク戦略プランの位置付けについて伺います。
- (2) ジオパーク戦略プランの成果並びに課題について伺います。
- (3) 糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトの目的と取組状況について伺います。
- (4) 地域づくりプランの策定の進捗状況について伺います。
- (5) 各地区における地域づくりプランの策定の母体としてどのように想定されているか伺います。
- (6) 糸魚川ジオパーク戦略プランが地域づくりプランに盛り込まれるように働きかける活動をしてはどうか。下記について伺います。

地域担当者が糸魚川ジオパーク戦略プランについて働きかけることについて。

糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトチームが働きかけることについて。

- (7) 市街地域と中山間地域との地区交流の促進を図ってはどうか伺います。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

甲村議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、総合計画後期基本計画の中でジオパーク戦略プランは、市の発展に寄与する重点施策として位置づけております。

2 点目につきましては、ジオパーク戦略プランにおいて今後の方向性が示されたことが成果と考えており、市民と一体となってどう進めていくかが課題であると考えております。

3 点目の目的は、ジオパーク戦略プランの理念に基づいて、戦略と年度ごとの取り組み方を検討、整理し、効果的な事業実施を目指すことであります。

庁内のプロジェクトチームには3つのプロジェクトと、それに対応した戦略について、検討、整理をさせております。

4 点目につきましては、3地域で地域づくりプランの策定及び実現に向け、市の考え方や支援の方向性を示す説明会を開催いたしました。

今後は各地区に出向き、地区役員や各種団体に説明し、プラン作成に向けた協議を行ってまいります。

5 点目につきましては、地区により策定の手法も異なると考えており、母体となる組織も画一的に決めることはできませんが、自治会をはじめ、さまざまなお立場の住民から参加をいただきたいと考えております。

6 点目につきましては、地域づくりプランは各地域の自主的な活動計画が基本であり、戦略プランの内容を踏まえて、それぞれがジオパークを意識し、活用する方向で取り組んでいただきたいと考えております。

7 点目につきましては、地域づくりにおいて市街地域と中山間地域との交流は効果があるものにとらえており、より交流の促進を図ってまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1 番（甲村 聡君）

2 点目の質問に入ります。

まず、1 番目のジオパーク戦略プランの位置づけについてであります。施策の体系の中で、第4章、交流いきいき産業のまちづくり、3 節、魅力ある観光の振興があり、観光資源の活用と地域振興や受け入れ体制の充実にジオパーク関連の記載がありますが、ジオパーク戦略プランの位置づけとすれば、そこにだけかかっているのか、そこら辺、全体とすれば、ほかにもかかわる部分があるのではないかと私は思うんですけども、その点についてお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

確かに第3節、魅力ある観光の振興として、特に観光資源の活用と地域振興の中で、ジオパークの戦略プランについては有効な施策として方向づけしてあります。

表記としては、これだけになるわけですが、本来今まで既存のやっていた観光事業、並びに誘客拡大、交流人口拡大にあわせては、本来この世界認定を受けてるわけですから、これらをしっかり指標として施策の中でオーバーラップさせながら、広く多様な形で取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

私も課長の答弁のとおり、この部分の文言だけでとらえるということではありません。

ジオパーク戦略プランには交流人口拡大により期待される効果として、経済効果、地域活性化、郷土愛の醸成が挙げられておりますが、その関係性は基本計画との関連でいかなるものか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

先ほどの答弁にも関連してきますけど、例えば交流人口の拡大により、特にジオパークを活用して誘客拡大が進展するとすれば、そこにかかわる地域振興並びに関連業種が、市内の中でそれぞれに元気を持って、少しずつですけれども、増進していく要素が十分あるというふうに考えております。

そういう意味での地域とのつながりづくりをしっかりと保ちながら、やはりこれから活気のある糸魚川をつくっていかねばいけないというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

市長は、平成21年9月市議会定例会において、世界ジオパークの認定について報告されました。その中で平成19年秋、「新市一体化の醸成と諸問題の解決には、すぐれた自然、地質資源、また、関連する歴史、文化等のこのジオパークの取り組みしかないと思立」と述べられております。

市長、現在でもこの思いは変わりませんか。その思いの中身を含めてお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

変わっておりません。やはりジオパークはすぐれた、また、特筆した地質、また資源を活用し、

また保全して、そしてまた、それをどのように地域振興に生かしていくか。そして、そこに住んでいる人たちと自然がどのように共生をしているかというところが、ジオパークの問われるところでございます。地質だけということではございませんので、その辺がやはりジオパークの特徴であり、特に我々糸魚川市が今目指しているものと、本当に理想的には合致するものにとらえて、今それを推進いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

ありがとうございました。

思いも含めましてお聞きしました。ジオパーク事業が糸魚川市の発展に寄与するというところで、推進されたというように受けとめております。

ジオパーク戦略プランの成果などについて伺います。

戦略プランの基本方針では、来訪者に来てもらうためには、時機を得たインパクトのある情報発信が必要であるが、来訪者の満足度を最大化させられるような地域の受け入れ体制が伴わなければ、リピーターやよい評判に結びつかず、結局、来訪者は右肩下がりにになってしまう。外への発信と準備を整えることは、ジオパーク戦略の両輪であるとしておりますが、この点について受けとめ方をお聞きしたいと思います。お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

議員お話のとおりだと思います。1つは、やはり誘客拡大。この中では宣伝というものが、啓発活動が非常に大きくなります。糸魚川市を知っていただき、たくさんの人に来ていただく、その手法をしっかり展開していくということが、最も大事であります。

もう1点については、やはり平たく言いますと、おもてなしというふうなことになります。来たお客様に満足をしていただくというのは、大きな課題であります。それがしっかり伴ってこそ、初めて事業が成功していくんではないかなというふうに考えておりますので、この2点を重要な柱として、今後もしっかり受けとめてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

今までジオパーク事業について取り組まれてこられて、来訪者に対してジオパークアンケートの調査をお願いしておりますけども、その回答の中で、参考となる事項がありましたらお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

当市が持っております地質資源、並びに各サイト、それから多様な提供の中にある食とか、それから景観、そういうものについては非常に興味を持っていかれますし、おおむね、かなり好感度として期待しております。

ただ、いろんな形でアンケートをとらせていただきますけど、全国の中での糸魚川市の位置づけが非常に不明確でありますし、圧倒的に糸魚川市を知らなかったという全国の人たちが多くいます。その人たちに、どういうふうに情報提供をしていくのかというのが、大きな課題ではないかなというふうに思われますので、そこら辺もしっかり、これから情報発信の1つに据えていかなきゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

糸魚川市が、まだまだジオパークということの事業が浸透してないという課長の答弁でありましたが、この部分をどのように知らしめていくということは、ある面では情報発信を的確に、また充実させていくということが大事だろうと思います。

それとある面では、このアンケートの中で、また糸魚川市に来たいという方も中にはおられるし、もう参加しなくてもいいという部分もアンケートの中に載っとるわけですね。その中でリピーターとして、もう一度来てほしいという部分について、魅力をどのようにつくっていくかが非常に大事なんじゃないかと思うんですね。

その方策として、いろんな戦略プランも組まれて、また、プロジェクトチームも立ち上がったということではありますが、またリピーターとしてどのように、このアンケートの中で受けとめただけでよしいんですけども、どのような方策を考えたほうがいいのかという部分の考え方がありましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

すべてのお客様ではありませんけども、私どもがツアーでかかわるお客様に対しては、できるだけアンケート等を徴集させていただいております。

その中で、特に昨今は個人情報の管理というのが非常に難しいわけでありまして、特に名前、並びに連絡先等、記載の許される方についてのみ管理をさせてもらっておりますけども、同様な情報を次の時期に、適切に流すというダイレクトメールに対する管理、そういうものも加えて今後のリピート活動に生かしていきたいというふうに考えておりますし、できるだけ現在は定点ガイドを含めまして、特にバスツアーでのガイドを含めまして非常に好評であります。これは現地の人たちが、現地の言葉でしっかりご案内するというのが加わって、このジオサイト並びに市内の観光については、非常に魅力が倍増しておりますので、同様な形で、これからも継続してまいりたいというふう

に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

観光ガイド、ジオパークのガイドが有効であるというお話がありました。私もそのことは今まで言ってきましたし、大事であると思います。その中でガイドさんが、このガイドさんはいいから、また来たいわという部分のアピール、また、名前をガイドさんは名乗るわけですね。そうすると行程の中で話し合ったり、また、食事しながらという部分もあって、ああ、このガイドさんで、またほかの地区をガイドしてほしい、そういう部分のお話を聞いたことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

今、ジオパークガイドを含んで38人の方にご活躍、ご協力をいただいております。非常にありがたいことでありますけども、特に定期観光のツアーバス等では、ほぼ1日、半日以上、お客様とおつき合いですることになります。そういう中の評価をいろいろ年度ごとにお聞きしますと、やはりよかったというのもありますし、現場で正直なところトラブってしまったというお話も聞きます。

ただ、できるだけガイドさんの資質の向上を含めて、年度ごとに少し取りまとめながら、なおかつジオパークのガイドの会等を含めまして、その中では資質の向上、並びによりよいサービスの提供に心がけていくような活動もさせていただいておりますので、今後ますますそういう意味でのお客様に対するニーズに、こたえていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

人がガイドするわけですから、失敗もトラブルも生じることはやむを得んと。しかし、失敗はおそれず誠心誠意、おもてなしという部分の中で解消されて、旅行が、また行程が終わる中で、よかったねという評価を得るようなご努力を、ガイドさんにはしていただきたいと思っておりますし、失敗することが次のガイドの大きな糧になるのではないかと、このように思います。

話は変わりますけども、戦略プランの中で、小・中・高の体験学習拠点としての取り組みが載っておりますけども、この取り組み状況についてお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

市内の小・中学校に関しては教育委員会のほうの取り組みで、非常に私どもと連携をとらせていただいております。果敢なそれぞれの地域活動、並びに学校内での活動をしていただいております。

先般、筒石の小学校でも地場産の食材だとかジオサイトを活用した活動報告がありまして、私も職員並びに議員の皆さんからも参加していただいているとおりであります。

特にジオパークに関しては、研究素材並びに学習素材としてのかかわり方が非常に大きくありますし、その辺についてはしっかりこれからも進めていかなきゃいけないというふうに考えております。特に、妙高青少年の家とか、あるいは今、国の機関を含めまして、近県と少し調整を保ちながら、やはり大きな人たちに来ていただけるような今接点を見つけながら、いろいろPRさせていただいておりますので、今後そういう視点も大事にして取り組んでまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

答弁があったわけですが、市内の状況ということで、市外についてはなかなかお話がなかったわけですが、行程表の中では学校の旅行誘致ということも拳がってきております。これは行程からすれば、少し遅くなってからの取り組み、具体的な部分はあるかと思うんですけども、今現在このことを学校の修学旅行等の誘致を図るということは、ある面で、また糸魚川に勉強に来たい、また、観光でも訪れてみたいという子どもたちが育ってくる可能性があるわけですね。若い人たちに働きかけることが、もう継続的な事業活動に大きく貢献するのではないかと、このように思うんですけども、具体的な取り組みはまだなんでしょうか。どのように今現在進めておるのか、お聞きしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

小・中学校の誘致でありますけども、データは今手元にありませんけども、フォッサマグナミュージアム等への来訪者のうち、やはり研修を含めた学校団体の入り込みは前年よりは少しずつ増加してきておりますので、それだけは確実であります。

また、私ども一般的な農村体験を含めた新しい誘客として都内の学校が1つ、24年度の夏から加わりまして、人数はそう多くないんですけども、一定枠の中で、特に能生地区で活動に参加していただけるような今動きがありますので、積極的に誘致並びに活動に参加してもらえような方向で、取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきます。

修学旅行協会の今進める中において、修学旅行を担当してる先生方のツアー旅行等も考えて、今、進めておられるということの話もお聞かせいただいております。特にジオパークは、大

くくりの中においては交流人口拡大でつながるわけではありますが、この観光という部分と、当初から我々はフォッサマグナミュージアム、博物館を核とした地域振興という中においては、やはり多くの人からおいでいただく。そしてその中心は何かというと、やはり学べる、そして学習、研修できるのをベースにしてきてるわけでありまして、そういった部分をしっかり位置づけなくちゃいけないだろうと思う次第でございまして、その辺の充実をすることも、そしてまたそういったことを拡大していくことも大事だろうと思ってるわけございまして、そちらのほうも同じように大事な事業としてとらえさせていただいて、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

ある面では修学旅行、生徒、学生を含めて来ていただくことは、宿泊を伴うという部分も考慮に入れて、やっぱりふえてはおるんだけど、宿泊なしだとある面では経済の部分の効果が薄れるという面で、ある面では学習を押し出しながら進めることで、子どもたちが喜びながら、また先生方も学習の内容として非常に効果が上がるというものが実現すれば、いよいよジオパークの事業が推進できるのではないかと。そういう面では宿泊を伴ったという部分もぜひ精力的に取り組んでいただきたいと思うんですけども、すぐ実現できるかどうかという確証はなくてもいいんですけども、熱意なり計画がありましたら、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

まず、活動の広がりでありますけど、宿泊はなかったんですけども、実はきのう新潟大学のダブルホームということで、ゼミ形式ではありますけど数名の方が1日、糸魚川滞在で、いろんなことを学んでいきました。もちろん、ジオパークを中心としてであります。

それから、先ほどお話をしました都内の学校というのは、これもクラブ活動の一環として能生地区へ8月にかかわっていただくことになりましたけども、約1週間滞在していただいて農業体験を含めてサイトの見学とか、いろんな体験をしてもらうことになっておりますので、少しずつではありますけども、今、市長がお話のとおり、少し修学旅行業界との連携を保ちながら、まず先生方をお誘いして、そこから糸口をつくる中で、しっかり子どもたちもここに連れてくるようなシステムを、つくっていきなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

このことについては、精力的に取り組んでいただきたいと思っております。

3番、糸魚川ジオパーク戦略プロジェクトの目的と取り組みということで、先ほどありましたけども、これにつきましてはチームをつくった意味として、やっぱり産業部長がトップとなって、全

庁横断的な取り組みを行うということですが、産業部長の決意のほどをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

この戦略プロジェクトの取り組みは、やはり戦略そのものもそうなんですけれども、このジオパークの取り組みが、要は市を挙げてというか、全体にかかわる内容を包含しているという部分がありますので、やはりこれは全庁的な取り組みとして仕組んでいくということから、こういうプロジェクトの立ち上げを提案させていただき、これを実施してまいっているところでございます。

この中では、やはりジオパークをいかにしてお客さんに来ていただけるか、そのための情報の発信と、それから来ていただくためには満足していただかなきゃいけないので、その受け入れの体制を整えるという、これはジオパーク戦略プランの2つの柱でございますけど、それをしっかりと具体の形にしていく、そのためのプロジェクトということで取り組みをしていっておるものでございます。

そういった意味から各プロジェクトのメンバーそれぞれが、これから先どんなふうな形で、この具体化を進めていくのかも含めて横の連携、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、そういったものをしっかり意識して、しかも、それをジオパークという大きなテーマの中でやっているんだということを意識して仕事をしていただけるように、そういうふうな願いも込めてプロジェクトを動かしていると、そういう状況でございます。これからはしっかりと、まとめてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

こういう冊子ができておまして戦略プラン、非常に見事な厚みもありますし、ボリュームもあるので、このことを具体的に取り組むためには、人が動かんらんとという部分があるわけですね。そういう面で、本気になってプロジェクトチームを結成されたということは、評価いたします。

それで、その中身でございますけども、3つのプロジェクトをつくるということですけども、情報発信・誘致拡大プロジェクトも大切です。鉄道を利用した交流人口拡大プロジェクトも大切であります。先ほど産業部長もお答えになった中で受け入れ体制の整備プロジェクトが、私は特に重要と考えております。

そこで伺いますけども、市民のジオパークに対する心のベクトル合わせの具体的な取り組みということが記載されておるんですけども、この点について少し解説を加えて考え方をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

受け入れ体制の整備のプロジェクト、3つのうちの1つでございます。その中で、やはり受け入れ体制を整えるということは、例えば商売をされていらっしゃる方もそうですし、それからお店の方もそうですし、交通機関の方もそうですし、こういったお客様にかかわる方すべてが、ジオパークというものについて同じ気持ち、同じ意識を持って、しかもそれはおもてなしという認識を持って取り組むことが必要だろうということから、まず、市民の皆さんがジオパークに対しての認識をしっかりと持っていただくこと。また、ジオパークのさまざまな取り組みの中で、みずからこれはいい取り組みだ、あるいは、これをやるとすばらしいものができるとか、そういったものを心に認識していただいて、それを情報発信していただくということが必要だと思います。

具体的に、これはジオパークフェス、お祭りですね、こういったイベント的なものも想定されますし、それから、その準備過程で例えばさまざまなものをつくったりとか、それから音楽をつくったりとか、さまざまなそういう取り組みがなされると思いますが、その過程でやはりジオパークって自分にとっては何だろうというものを振り返っていただく。それによって、このジオパークの取り組みが浸透していくような形をつくっていききたいなというところが、この心のベクトル合わせの中で、今考えている部分でございます。中身について、さらにこれを深めていくということで、これは引き続き検討を進めて、具体の事業を展開してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

ありがとうございました。ある面で納得できる部分も、また、理解も深まりました。

引き続き、もう1つ、地域の魅力を磨いて適切に伝える取り組みはどのようなものかと、この部分がかかれておりますけれども、この部分についても内容をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

戦略の2つ目に挙げております、地域の魅力を磨いて適切に伝える取り組みということでありますが、ここで戦略として想定したものが、この受け入れ体制の整備のプロジェクトについては、大きく3つの考え方があるんですけども、1つは、先ほどの要は市民の皆さんの気持ちを1つの方向にしようという取り組みが必要であろうということ。それから2つ目が、伝えていく、磨いていく取り組み、これは受け入れ体制の部分のどちらかということ、今のはソフトというか、それから、あと商品とか、そういったものを生み出していく、あるいは体制を整えていくという、そういう取り組みでございます。

具体的にはガイドの皆さんですとか、あるいは接客業をはじめとした皆さんのおもてなし意識の向上、こういった例えば啓発の機会ですとか、そういったものをしっかりと取り組んでいくことが必要ではないか。また、言ってみれば糸魚川に来てみたくなる、あるいは来ないと手に入らない、そういったいわゆる糸魚川ブランド的なものですね、これを多角的に展開していくという方法も、

やはりこの受け入れ体制の中では必要であろう。また、観光施設とか、あるいはジオサイトのご案内の部分ですね、看板とかそういう案内板とかというものもあるでしょうけれども、そのほかにいわゆるガイドをしたりとか、それから、もう1つはいろいろな仕組みを、例えばITを使ってとか、そういったものを深めていくこともできるだろうということで、そういった部分の整備を、どう考えていくかというプロジェクトの柱でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

戦略3では環境整備、ハードの面ということは文言はそのとおりでありますので、解説、また内容的にはちょっと削除したわけで、この2点がある面で中心になって、どうしても人がかかわることとありますので、具体的なものが見えないと、なかなか進まないのではないかとということで、部長に解説をお願いした次第であります。

地域づくりプランの策定の進捗状況ということで、3地域について説明があったということで、各地区、大きな地区があるわけで、それぞれ主体的に取り組むということがうたわれておりますけれども、この地域づくりプラン、どの程度、何年程度かけてというお考えがあるのかどうか。これはつくれんところはつくれん、事情もありますのでという答弁になるのかと思うんですけども、ある程度の部分ができ上がる、地域づくりプランができ上がる想定年度はどのようにお考えなのか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

甲村議員の言われるとおり、非常に地域によって事情もございます。大きい小さいこともございますけれども、現段階では、おおむね5年から7年程度を策定の期間としたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

これについては地区は永久に続くわけですので、環境も情勢も変わってくる。その中で、ある面では主体的に地域づくりプランが策定されるということは、その地域が1つになっていく大きな要素だということで、ある面では、あんた方にお任せましたという話では、なかなか策定しにくい状況もあるわけで、5年から7年という想定であります。できるだけ精力的に地域づくりプランができるような働きかけをお願いしたい。

その中で昨年、公民館の体制の見直しがあって、長時間論議いたしましたけども、コミュニティ活動が公民館の中でできるようになった。これはある面では、地域づくりプランの策定にプラスになっていくのではないかなと思うんですけども、公民館体制の見直しの中で、どのようなことが期

待できるのかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

見直しの中で地域づくりプランがどうなのかということではなくて、やはりその地域づくりプラン自体がコミュニティであると思っております。地域の皆様方が等しく、みんなその中で、自分たちの地域を語る、自分たちの地域を知ることが、一番大切なんだろうと思ってるわけがございます。それが原点でプランが動いていくわけがございますので、そのように公民館の見直しとか、そういうものではないわけがございますので。確かに公民館も、やはりその中で核になっていただく組織でもあるわけがございますし、行政もやはり積極的にその中で加わりながら、地域づくりプランはつくっていくものととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

糸魚川地区におきましては戸数も多い、また地区も多いということで、ある面ではそれぞれの団体なり、まちづくりに関して活動が非常に活発であるという部分があります。

その中で旧糸魚川市であります、14地区の自治区、公民支館というものがあって、この部分を地域づくりプランの策定にかかわっていくとき結構いろんな要素があって、なかなか構築しにくい面があるのではないかなという私、受けとめ方をしとるんですけども、この部分について、どのように糸魚川地区をまとめていかれるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

ご質問の糸魚川地区、14区であります。4,000世帯を切るぐらいの大きな世帯数になっております。一挙に糸魚川地区で、すぐプラン策定に向けての動きというのは、なかなか難しいというふうには考えております。

糸魚川地区につきましては、これまで14区の支館の長い歴史がありますので、こういった部分につきましては、支館単位でまず動きを起こしていただくということも方法の1つだというふうに考えておりますけども、最終的には、糸魚川地区としての地域づくりプランという形で、まとめ上げていきたいというのが現在の思いであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

ある面では各団体が、ジオパークの事業も通じて地域づくりということで団体が動いて、具体的な名前は申し上げませんが動いておるわけですね。積極的に動けば動くほど、また地域との部分と言いが違ったりしてくる難しさがあるんじゃないかということで、ある面では地区にお任せすると離れてしまう、一体化がなかなか難しいという部分があるんじゃないかと思えますけども、その調整役として行政は動かれますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

先ほど申し上げておりますように、やはり地域担当者が中心となりまして、ケースによってはということではなくて、関係するいわゆる全庁的な取り組みの中で、プランづくりに取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、地域に丸投げするような形では全く考えておりませんので、よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

糸魚川ジオパーク戦略プランが、地域づくりプランの中にある面で盛り込まれていく方向性が、私、大事ではないかと思っております。そういう面では、地域担当者が地域づくりプランの中に入れ込むような働きかけ、やっぱり先ほど市長も言われておりましたけれども、非常にジオパークの事業は重要であるというように思います。

また、地域づくりビジョンの政策の方向の中で、各ジオサイトの活用がうたわれております。このことを地区担当者が熱い思いを持って説得し、地域づくりプランの中に入れ込むことが、地域の活性化、交流につながるという思いの中で、働きかけをしていく方向がいいんじゃないかと、このように思うんですけども、お考えをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、地域づくりプランの進め方につきましては、地域の人たちが、やはり自分の地域をどのようにお考えいただくかということが大切でございまして、ジオパークの事業推進とは私は一致する、また、一致してほしいという気持ちはありますが、それを積極的に初めから働きかけるというのは、いかがなものかと思っております。

また、ジオパークを取り上げるにいたしましても地域振興に使っていくのか、要するに自分たちのコミュニティの醸成として使っていくのかというのは、いろいろあろうか思うわけでございまして、1つのやはり地域資源として、また、地域素材としてお考えいただいて、その中でどのようにしていくか。そしてまた、それをどのように生かすかというときに、初めて行政といたしましては、

こんな考え方という形になっていかないと、私はあまりにも行政の押しつけというのは、今までいろんな問題で、1つの課題となっていた部分がございますので、その辺は注意していかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

今、市長の答弁がありましたが、強制ということの思いは私も今お話しとる分はありません。ただ、ジオパーク事業が、非常に糸魚川市にとって有益であるという事業の1つだと、大きな事業だということの認識が各地区の中に浸透していく。そして具体的に、このことをやったら、すごくよかったねという部分の中の説得力として働きかけていくことについては、積極的にされても問題はない。その中で、強制的なという部分で、だからこれをしてもらわんと困るというような話ではなくて、この中で事業に取り組めば、この地域がプラスになる、非常に元気になるよねという部分の中の働きかけを地区担当が、やっぱり積極的にしていくべきなんではないかという思いで申し上げておるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークを事業としてとらえるか、資源としてとらえるかの違いだろうと思っております。事業として説明しろということではなくて、やはり1つの資源としての説明は、やはりしていかなくちゃいけないだろうと。皆様方に、この資源というのは非常に有効なものであり、また、特筆的なものだということで、やはり地域の誇れるものであるということころは、やはり説明をさせていただきます。それをどのように自分たちのものとしていくのか、活動の中に入れていくのかどうかというのは、やはり地域の皆様方のお考えになるということでお考えいただければ、ジオパークと地域プランとの流れというのは、おわかりになっていただけるかと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聡君）

これにつきましては、プロジェクトチームの働きかけも同じ方向で申し上げておるわけでありませぬ。

ある面では地域担当が、ある面で区切られた部分。しかしプロジェクトチームは、大幅な全庁を横断するようなプロジェクトチームであるとすれば、やっぱりその地区の人たちが地域プランの中で、ああ、これはいいよねという1つの部分の中で、条件として受け入れるような働きかけ。先ほど産業部長も言われたソフトの部分の中で、どのように整理していくかという部分の中にかかわってくるのだと思えますので、これについては各地区に積極的に働きかける必要があるんじゃない

かと思うんですけども、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

この戦略プロジェクトチームが、地域のほうに働きかけをされてはどうかというご質問でございますけれども、戦略プロジェクトそのものについては事業のいわゆる戦略の構想と、それからその事業を、どうやって具体の事業に結びつけていくかというその道筋、考え方を整理するというのがミッションでございます。そういったことから、具体の事業の展開については、その先の例えば事業の所管課とか、また、それぞれの取り組みの段階で進んでいくものでございます。

先ほど市長の答弁がございましたように、地域の皆さんが考えるに当たって、こういうふうな考え方というものの提供はできると思うんですけども、やはりどうそれを取り組んでいくのか。やはりそれは地域の皆様のご判断というか、ご計画というか、そういったものの整理につながっていくものだろうというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

基本的には、今、部長の説明のとおりなんですけど、その根底にはどういうことかと言うと、今、資源だけで、交流人口拡大とかいろんな面で、観光面について成功していくというものがあれば、それはそれでいいんですが、今、糸魚川の中で、そういうことはなかったという中で、どうすることが一番いいのかということは、やはり自分たちの地域の資源は、やはり人が介入しなかったら何も評価が得られないものでなかったのか。そういったことを考えたときに、今、ジオパークで、そういうことを進めていくわけございまして、そういうことになると、そこに愛情を持って、熱意を持ってかかわる人たちがいなければなかなか成功しないんだと。

これは交流人口の拡大、観光、また、今言ったように、いろんな研究にしても同じなわけございまして、そういった人たちに一番身近な人たちが、やはりそういった形になっていただかなければだめなんだ。それをよそから、どうなんだというような形で進めていくと、やはりそういう形に入っていくと、そのときはいいかもしれませんが、長続きしていかない。我々はやはりこれからの中で、一時的によければいいということではなくて、持続可能な地域振興を目指さなくてはならないわけでございますので、その辺はしっかりしていかななくちゃいけない。

やはり地域の皆様方と行政と、また、関係団体の皆様方との連携が一番大事なわけございまして、その一番核になる地元の人たちがどうなんだというところは、やはりしっかりまとめていただかなければだめなんだろうと。そういう中での情報提供はしていきますが、それを働きかけていくような形の中で入っていきますと、どうしても行政主導という形で、今までのような形になってしまう。そういうことにならないように、時間をかけていきたい。それと地域プランとは似て非なるものかもしれませんが、一体のものもあるだろうと思いますし、また、違ったところもあるだろ

う。そういうところで、まず、原点というとらえ方をさせていただきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聰君）

市長が言われることは、理解できる点であります。ただ、どうしても全体が活性化していくために、その地区が本気になってかかわっていく。そういう部分の中で、こういう事業も非常に大事だよという部分の中に説いていく。そして、そのことが各地区について非常にプラスになるという部分があるので、話題にして論議をさせてもらっておるわけです。

それから市街地域と中山間地域の地区交流ということを挙げたんですけども、これにつきましても糸魚川市街地域については、世界ジオパークの認定はされたということは、知っとる人が多くなってきたなと思っておりますけれども、このジオパーク事業について理解や関心が、まだまだ薄いように思えてならんわけです。また、中山間地域においては過疎化、また高齢化が進んでおりますし、いろんな地域プランなり、こういうジオパークの事業についても支障を来す状況があるんじゃないかと思われま。

そこである面で地区交流を盛んにすることによって、こういうジオパーク事業、また地域づくりプランがまた盛んになって、活性化が図られるんじゃないかということが思われるわけですが、これについてお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさにご指摘のとおりでございます。自分たちの持つ魅力ある地域資源をもって地域振興が図りたいわけでございますので、それがジオパークというとらえ方でございます。それを今進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

甲村議員。

1番（甲村 聰君）

奴奈川クラブでは、この2月7日に、富士市産業支援センター f - B i z に政務調査で伺ってまいりました。この支援センターは短期間で、全国的に見ても最も活性化した産業支援施設となっております。そのセンター長、小出宗昭氏の提言がありますので、このジオパーク事業、地域活性化プランという部分について参考になればと思ひまして、原文そのままを読み上げます。

産業支援という仕事を業種分類するとしたら、明らかに公によるビジネスコンサルティング業務であり、支援担当者に求められる姿勢は、次の3つであろうと考えている。

1、相談者と同じ目線に立って考える。2、ビジネスや経営者のセールスポイントを的確にとらえ、本人にも認識させる。3、ビジネスの成功を目指して戦略と戦術をとともに練り、実現に向けて

一緒になって挑戦する。そして成果が上がったら、それを積極的に情報発信することが重要である。そうすると地域のほかの事業者たちが刺激され、自分たちもやってみようと思い始め、その思いを行動に移す人がふえてくる。そして思いを同じくするチャレンジ精神と、やる気あふれる事業者の連鎖が地域に広がっていく。この連鎖こそ地域産業はもちろん、ひいては日本経済全体をも活性化させる大きな原動力となるのではないかと、こういう提言がされております。

以上で、私の一般質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、甲村議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

甲村議員の関連質問をさせていただきます。

2点ほど行います。いわゆる地域づくりとコラボレーションする糸魚川ジオパークの戦略ということで、いろいろなご質問がありましたけど、私は今後の展開について2点ほど伺います。

いわゆる今後の展開として、長野県の飯山市を例に挙げさせていただいて質問を行います。

去る1月11日、糸魚川市の観光協会の一員として視察、そして2月6日、同僚議員として飯山市を視察させていただいたところ、このようなことについて触れておられました。

まず、いわゆる糸魚川市にたとえば官と、いわゆる観光協会の民との役割をうまく打ち出しております。今後、この必要性が強く問われると思いますけど、このことについて市の今後の展開をお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

まず、官民との関係ですけども、特に観光協会に関しては昨年、合併にたどり着いたことは、皆さん既にご存じだと思います。早々な中身のある本来の活動を伴った合併ということで、本年、24年度についてはしっかり、昨年から引き続いておりますけども、本部事業並びに支部事業というような形で、どこを、だれがしっかり責任を持って展開していくんだということを含めて、皆さんに検討させていただいております。早々にその結論を持って、できるだけ1市全体として動けるようなプロモーションに移っていただきたいというふうに考えておりますし、そういう指導をもとに私どもも一緒に活動しております。それがしっかりする暁の中では、やはり市も同様に連携を保ちながら、やはりいろんなところに事業展開、並びにそれなりに手法を変えたり、やはり現実の姿を直視しながら、問題、課題を克服するような展開にしていかなければいけないんじゃないかなというふうに思っております。

なお、飯山については三、四年ほど前から十分事務的レベルで交流させていただいております。毎

年、能生地域を含めて1泊でディスカッションといいますか、事務局と交流させてもらって、できるだけ学べるところはノウハウを生かせるような形で、私どもも交流させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

もう1点、糸魚川ジオパークの成功が、いわゆる観光振興の成功につながってくると思います。そこで、その大きな役割を果たすエージェントとのパイプが、非常に大切かと思います。そのことについては、もう糸魚川市は完全に気がついておりますが、私がここで1点問いたいのは、チャンネルができて職員も異動が必ず何年か後にあります。そこで市長、長いパイプを保つために、市のいわゆる観光課の人たちが長い間チャンネルを持ってないと、せっかく築き上げたものを失い、そのことが非常に今後の糸魚川市にとって自分は大切と考えておるんですけど、そのことについて、市長はどのように考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

観光ベクトルが今1つになって、同じ方向を向いて動き始めたということでございますが、しかし、各個々のやっぱり特徴もしっかり大事なわけでございますが、そういう中で、自分たちの観光をどのようにとらえていくかというのを、しっかり定めなくてはいけないんだろうと思っております。

特に、その中でジオパークというのは、インパクトのあるところでございまして、新たな1つの切り口になっとるわけでありまして。そういう中で、我々の考えているものを今しっかり出しとるんですが、それをどのように持続させるかというところだろうと思っております。それが私は観光協会の皆様方の働きによって、つなげていけるんだろうと思っております。そういう中で、官の持つ安心さというものを、やはりとらえていただく中で、これはもう観光協会だけではなくて、行政という形が一体となって動くことが、安心をしていただけるだろうと。いろいろなことを提案したり、また、発信する中において行政も加わることが、安定感を持っていただけるんだろうということであります。そういうことで、これからの中で今言われました心配な点については、やはり観光協会の皆様方と一体となって、これは進めていくことだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

今、市長が答弁くださったように、いわゆる観光協会と市がいかにして関係を確認して、役割を果たすことが、成功の最低限の条件ということはわかりますけど、今後ともいわゆるエージェントと対応するプロパー職員が、いかに市の施策により長い間そのチャンネルをつくること、糸魚川

市のジオパーク戦略において非常に大きなウエートを持ってくると思います。

このことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。市長、ご答弁あったら。

議長（古畑浩一君）

ちょっと待って、今はあなたは質問を終わりますと言ってからの答弁でしょう。答弁されるんだか、終わるんだかはっきりしてください。

9番（久保田長門君）

もう1点伺います、そのことに対して。

議長（古畑浩一君）

質問するわけね。

9番（久保田長門君）

はい。

議長（古畑浩一君）

じゃあ市長、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

今、いろんな事業が具体的にになってきとるのが、確かに長いつき合いをする中でいろんな事業が起きております。これは職員が一生懸命こつこつと努めてきた1つの成果だろうと思っております。そういったことは大切にしていきたいわけでございますので、人がかわったらなくなったということにならないように、これはしていきたいと思うわけでございますし、エージェントの皆様方とのおつき合い、本当に大切だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田議員。

9番（久保田長門君）

これで質問を終了いたします。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、関連質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を午後4時といたします。

午後3時45分 休憩

午後4時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔13番 伊藤文博君登壇〕

13番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

今回は、新年度の重点施策3項目から要点を絞って市長の方針を伺います。項目も多く、総務文教常任委員会の所管部分も多いので、大枠を問うことを中心に質問をいたします。

1、安全安心、元気なまちづくりについてであります。

(1) 東日本大震災は、史上最大規模の地震と巨大津波による原子力災害を併発した広域に及ぶ複合災害であり、長期にわたり国内全体に様々な悪影響を与えています。被災地の状況を教訓として、防災対策だけではない社会保障上の問題点を含めて、あらゆる情報を糸魚川市の現状に当てはめて、検討すべきものは全てそ上に載せ、即時対応すべきこと、時間をかけて対応できること、慎重な検討を要することなどに整理し、取り組まなければならなりません。検討状況はいかがでしょうか。

(2) 一般廃棄物処理、最終処分の長期的展望に立った総合的な計画策定と実行により、排出量削減、リサイクル率向上、最終処分場の確保と環境の保全を図らなければならないが取り組み状況を伺います。

2、心豊かな人を育むまちづくりについてであります。

(1) 「日本一の子どもを育てる」とは「日本一の子育て環境づくり」であると考えます。学校・家庭・地域が一体となった日本一の子育て・教育環境の整備への取り組みはいかがですか。

(2) 子ども一貫教育方針の推進による豊かな心と学力向上を図るため、教職員の人材確保と資質向上を図り、必要な教員の加配を行って「一人の子どもを複数で育てる」仕組みを構築しなければならませんが、どう考えますか。

(3) 健全な精神と身体を養うため、「栽培」「料理」「共食」による地域に根ざした食育教育の充実をどう図りますか。

(4) 保育料の軽減、学童保育（放課後児童クラブ）の更なる充実等による家庭の負担軽減など、子育て支援策強化をどう考えますか。

(5) 課題として残された青海地域の公民館体制が機能的に構築されるよう十分なシミュレーションを行って、その結果を市民に示した理解の促進と、実行後の継続的改善にどう取り組みますか。

3、新幹線開業に向けたまちづくりについてであります。

(1) ジオパーク戦略には外からの目線による分かりやすく明確な「核」を設定した「見せ方」「楽しませ方」を意識した実行プランが必要であります。必要な人員配置、市民を含めた人材の育成、プランの推進と進行管理のためのシステム構築、確實かつ有効な戦略実行をどう

図りますか。

(2) 新幹線・在来線駅舎問題、駅周辺整備に関して、将来の地域活性化につながる選択をどう図りますか。

(3) 新幹線開業に伴う並行在来線の健全経営と利便性の向上を図らなければなりません。利便性の高いダイヤ編成、糸魚川 - 新潟間の優等列車確保、新駅設置など、課題の早期解決をどう図りますか。

(4) 市民生活の向上と交流人口拡大、防災力の向上につながる安全性と利便性の高い交通ネットワークの完成をどう図りますか。

(5) 「企業支援室」を強化し、市内既存企業支援強化、地域の産業構造を反映した施策の推進、若者就労定住対策、財政力向上による地域力アップをどう図るのでしょうか。

1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、複合的な災害から市民の生命、財産を守っていくために、地域の実情や課題を再確認し、それぞれの地域に合った対策を構築していく必要があると考えております。

このため防災会議や部内協議において、防災面も含めたこれからのまちづくりについて検討し、できることから対策を進めているところであります。

2 点目につきましては、23年3月に策定いたしましたごみ処理基本計画の中で、ごみの減量化等の目標を定め、そのための施策として生ごみ処理機器の購入補助、ごみ有料化の検討などを行い、目標達成に向けて取り組んでまいります。

また、中間処理施設の整備や最終処分場の方法につきましては、ごみ処理施設のあり方検討委員会の中で検討いたしております。

2 番目の心豊かな人を育むまちづくりのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。

3 番目の 1 点目につきましては、全庁的な取り組みとして全職員の意識向上と人材育成を図るとともに、出前講座、ガイド養成、検定などの効果的な実施により、広く市民の皆様の人材育成にも努めてまいります。

また、プランの推進、進行管理につきましては、ジオパーク戦略プロジェクトで対応してまいりたいと考えております。

2 点目につきましては、ジオパークを核とした交流人口の拡大による地域活性化を図る中で、駅周辺を結節点として位置づけ、整備を進めてまいります。

3 点目につきましては、ご指摘の課題はいずれも重要なポイントであり、このたびの並行在来線への国の支援を考慮した経営計画や運行の方針を、早急に県及び並行在来線株式会社へ要請してまいります。

4 点目につきましては、北陸新幹線の開業と時期を合わせて国道や県道、都市計画街路網の整備を推進するとともに、鉄道やバスなどの公共交通機関をリンクさせてまいりたいと考えております。

5 点目につきましては、企業ニーズの把握と、さらなるワンストップサービスの強化による企業支援体制の向上が重要と考えており、関係職員のスキルアップなどにより企業支援室の能力強化に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

伊藤議員のご質問にお答えします。

2 番目の 1 点目につきましては、実践化に向けた各組織の具体的な取り組みを促すための理解啓発活動と取り組みの支援、園・学校での学習指導モデルカリキュラムと副読本の作成の 2 点に重点的に取り組んでおります。

地域や園、学校、家庭が連携した組織的活動と実践化への動きが始まっております。

2 点目につきましては、若手教職員の指導力向上のための継続的指導や、県外研修補助制度などを実施しております。

また、児童生徒の学習環境整備のため教育補助員の増員による指導の充実、学校支援地域本部事業の拡大など、教育環境の整備を推進しております。

3 点目につきましては、子どもの発達、成長にとって食育は大切であると考えます。地域とかがわりながらつくる、調理する、いただくなど、一連のつながりを体感する中で、学習する食育を推進してまいります。

4 点目につきましては、これまで次世代育成支援行動計画に基づいた事業の展開や拡充を行っております。

今後とも市民ニーズの把握に努め、行動計画の見直しを行いながら子育て支援に努めてまいりたいと考えております。

5 点目につきましては、移行準備期間の中で新たに設置する 4 地区公民館の組織及び業務内容について、地区役員と協議を重ねてまいります。

新体制移行後も、地区公民館が行う生涯学習活動や地域づくり活動などについて、公民館長会議等で検証を行い、よりよい公民館体制の構築に努めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13 番（伊藤文博君）

防災対策にいきます。防災対策上、東日本大震災で最も教訓としたものは何でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

最も教訓したものは何かというご質問ですが、やはりそれぞれの地域の市民の方々、住民の方々の防災に対する認識、そこがまず最も教訓となったものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

その住民の認識が、今、被災地はどうであって、糸魚川はどうか。そして今後、どういうふうにしていかなきゃいけないのか、その辺、答えてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

市民の方々、住民の方々のご認識が被災地でどうであり、あるいはこの糸魚川でどうでありということのご質問かと思いますが、被災地のほうでは、やはり当時こういうことをしておけばよかった、あるいはこういうことを教訓としておけばよかったということが、いろいろ今論じられ、あるいは反省として挙げられている、そういうものがあると思います。なお、その中でも逆には、またそのコミュニティ、あるいは絆というものが非常に生きています、再認識したということも出ております。

その辺を当市の中では、まず、できるところからということで、地域の方々の出前講座等で自主防災組織、そういう形の中で絆を深め、あるいは東日本大震災におけるそういう災害の事象をとらえながら、この地域に当てはめ、それを皆さんに認識していただいて、今後、進めていかなきゃならんということが一番の今課題になっておりますので、そういうところから、こちらのほうではできることとして進めさせていただいていることと、やはり海拔表示等々をしながら認識を深めていただくということを、まず、できることという形でさせていただきます。

なお、地域的には、そういう自主防災組織の絆を深める、あるいは地域コミュニティ、そういうものに対して深めていくことが、最も大切であると考えておりますので、それについても進めているというような形でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

じゃあハード面とソフト面を分けてちょっと聞いていきたいと思いますが、ハード面で必要な対策というのがあろうと思うんですね、今現状を見て、それはどのようにとらえてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

ハード面についてどのように考えているかということですが、東日本大震災を教訓とした場合、やはり一番大きな災害の1つの事象は津波であります。それにつきましては、ハード面といたしまして津波防災、これにつきましては、今、県のほう、あるいは国のほうからの中央防災会議における防災基本計画のこの流れを受け県のほうで、今、津波に対する対策のまとめを行っているところでございますが、それを受けながら、やはりこの地域として、じゃあ防波堤、防潮堤が必要なのか、あるいはそういうものが必要なのかというものはいろいろ出てきようかと思いますが、できることとしては先ほど申し上げましたやはり避難路、あるいはそういう避難施設の確保というものが先にきますので、ハード的な形とすれば避難路というものが優先されてくるものではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

あんまり細かいことを聞く気はないので大枠で聞きますけど、今、消防のほうと、それから施設管理をしている産業部のほうとの役割、両方の共有と連携というのが非常に大事になってくる。

そこで、きょうの主眼は、やはり東日本大震災で起きているさまざまなことを、どう検証して、糸魚川市の現状に当てはめていくかということなんですが、ハード面でのことを、産業部ではどういうふうにとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

建設課長（串橋秀樹君）

建設課としましては、道路だとか橋りょうだとかというのは被災に遭うものだと思いますけども、橋りょうや何かは古い時代からつくられたものがたくさんありまして、現在の耐震設計の基準には当てはまらないということで、仮に耐震設計をしたとしても、現在の最新の耐震基準までには達しないということでもあります。

それと非常に直下型の大地震が起きると、かなり橋りょうだとか道路は被災して、本当に通行不能だとか、落橋だとかということになりますけども、これから整備するものについては、最新の耐震基準を用いて設計をしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

耐震化を急がなきゃいけないですよ。橋についても、順次進められていますし、市内も調査されていきますので、そのこと自体を具体的に聞く気はないんですが、考えていかなきゃいけないのは、地震が起きたときに直接的に被害を受けて、そのことによって人命が損なわれるようなもの。例えば橋もそうですよね、もし落ちれば、通行車両の問題があります。

それから地すべり指定地、地すべり危険地ですね、指定地とは言いませんが危険地。先ほど地すべりハザードマップの話もあったんですけど、やはりそういうものがつくられていったことで、本当の意味で活用されていかなければいけない。そこで先ほど言った消防長の意識の問題と絡んでくると思うんですけど、実際の危険箇所が果たして横の連携の中で、しっかりと全市的に把握できているかどうかというところは、もう一度確認し直さなければいけないというところだと思っ

ね。災害というのは、いつ起きるかわからんわけですから、今とりあえずできることはどんどんやっていく。それから今後、このぐらいの期間の間に、こういうものを検討する。それから長期的には、これを考えていく。さっき言われた新しい橋を設計するときには、もう耐震化を十分備えたものを、これはもうちょっと先の話です。現状で短期・中期・長期ととらえたときに、ハード面ですよ、今言ってるのは、全庁的にどういう取り組みをしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

全国的に今はやっているんですけども、各施設の長寿命化計画というのが、どのような施設にも国のほうからそれを打ち立てて、それに基づいて整備をしていきなさいという方向づけがなされております。それらに基づいて、今、短期・中期・長期というふうに分けて、段階的にやっていくつもりで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

そこは長寿命化の中で言うと、そうなんですよ。だけど今、とりあえず危険箇所を拾い上げて、応急にしておかなきゃいけない対策をしていくということと、それから調査をかけてやっていく、これはもう中期計画、もしくは長期になるということですから、長寿命化計画というのは、どっちかという短期計画には今そぐわないんですよ。ですから危険箇所を拾い上げていって作業も含めて、まず拾い上げなきゃだめだ。こういう対応をしますということよりも、まず、それを把握しなければいけないところから始まるという感覚でいってどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まず、3.11東日本大震災で我々がやはり一番感じたのは、今まで進めてきたり、今までつくってきたものが、果たしてそれでよかったかというところもあるわけでありまして。それは先ほど消防長が申し上げたとおり、今見直しをしなくちゃいけないんだらうというところが、一番やらなくちゃいけないんだらうと思っております。その辺もまだ具体的になってないもんですから、なかなかその辺が、我々系魚川市の今つくってきたハザードマップなどが、本当にそれでよかったのかというのが、やはり一番ちょっと心配するところでありまして。

津波の問題、そして地震、そして地すべり、また、その中においても、もう一つは焼山の火砕流の問題だとか、いろいろ見直しを私はしなくちゃいけないんだらうと。また、見直しというか、再確認をしなくちゃいけないんだらうという、その作業が、一番今しなくていけないと思っております。それによって施設整備も出てくるんだらうと思えますし、また、それをどのように進めていくかということも出てくるんだらうと思っております。それを私は、今、急がなくちゃいけないというふうに思っている点でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

先ほどの津波の問題にしても、今この地区で想定する津波があると。この高さを想定していきま、今、最大限のものを想定しなきゃいけないでしょうけど、そのときにその津波を防ぐハード面の対策がないとしたら、ソフト面で対応していかなくちゃいけないという。1つきちとした想定を明らかにした中で、それに対する市民の生命を守るための対策を早急に明らかにせよ。これは短期にやらなくちゃいけない問題ですね。ハード面が整っていないからソフト面という話に、もう移っちゃったわけですけど、避難誘導の問題も含めて、例えば外にいる人がどうやって危険な状況を把握するのかと。

前にも言いましたけど、前に地震で津波警報が出たときにも須沢の公園で、子どもたちがずっとサッカーしていたと、こういう状況が現にあるわけですよ。それも大分前の話、何回も言ってますけど、そういう状況を防ぐために、起こさないために、今度はソフト面での対処をしていかなくちゃいけないというふうに、ソフトとハードをあわせて対応していかなくちゃいけないんですね。これをどう取り組んでいくかですよ、問題点を洗い出して取り組んでいくか。取り組んでいかなくちゃいけない考え方はわかりました。みんなそう思ってるわけです。実際どうするかですね、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

消防長（山口 明君）

お答えいたします。

もちろんソフト面・ハード面、両方とも取り合わせながら進めていく必要があります。それで以前にもお答えしておりますが、当方のほうで、このソフト面・ハード面も含んだ包括的なこととして、現在のところ約50項目を超える項目を抽出し、それを今すぐできること、それから中期的なもの、あるいは長期的なものとして分類をいたして、できることはもう既に行っております。それ

から現在検討中のもの、これは全庁的な取り組みの中でやっておりますので、防災面を起点とした中での話を既に進めさせていただいております。

なお、先ほど議員のほうからおっしゃいました津波に関しましては、まだ防災計画のほうを整備されていない中では、東日本大震災の10メートル、あるいは15メートルというものを意識しながらの現在のソフト対策を行う。なおかつハザードマップのほうで、3メートルということで示しておりますので、それではいけませんので先ほど申し上げました10メートル、15メートルという形でやらせていただいておりますし、そういう観点を常に東日本大震災のものをこちらのほうに入れながら分類し、やっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

取り組みは私も大体わかってるんですね。ただ、それを市民と情報共有して、市民の意識がそうになってくれないと、本当に思っているように動いてくれないと、逃げられるものも逃げられないということなんで、そこが大きな壁だろうというふうに感じます。

いろんな問題をしっかり取り上げてもらっていると思うんですが、消防だけでやってるということではなくて全庁的にそれぞれの部署が、災害時の自分の部署で、所管のところで起きる問題について俎上に上げていくということが、乗せていくということが大事だろうなというふうに思いますので、お願いします。

社会保障上の問題点、災害時のですね、これはどのように把握しておられますか。福祉事務所長だろう、社会保障上の問題だから。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

大きな災害になりますと、国の支援によりましての社会保障が出てまいるわけですが、当面、津波等の災害につきましては社会的な弱者、これらの支援が必要でございます。この辺につきましても救済の措置が今必要なわけですが、日ごろの訓練等もお願いしとるわけでございます。生活支援、あるいは医療保健対策につきましては、これは即時対応が必要でございますので、これは国の支援をいただきながら、あるいは行政としてもかかわっていかねばならない。これは社会的救済措置ということで、当面急ぐ対策でございます。

あと自治会組織の編成だとか生活基盤の整備、これは災害後の話でございますので、これらにつきましても国、県の支援をいただきながら整備していかねばならんと、こういうのが行政課題としてあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

何回も言いますが、個々の問題に対して具体的に細かいことを言う気はないんですが、例えば生活保護であれば被災後、生活保護が打ち切られたとか、例えば被災した売れない土地を持っているために、生活保護の対象にならなかったとか問題がある。それから多重債務の問題ですね。そして被災企業の支援とかと、いろんなことがあると思うんですね。

こういうことを私がきょう言ってるのは、そういう例えば商工農林水産課の所管のところできてくる企業支援という問題、企業が抱える多重債務の問題、個人が抱える多重債務の問題、それから生活保障の問題、こういうことをしっかり取り上げて、全庁的に検討する場を設けていく。そのことについての具体的対策は、すぐそこであるかどうかは別なんですよ。俎上にのせて、それをこの中でできること、国の動向をどう見ていくかということも含めてやっていってもらいたいということなんですね。これはぜひこれから、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

それから廃棄物処理のほうに移りますが、これもきょう言いたいのは長期的な計画ですね。ごみ処理の基本計画ができましたが、10年間の長期計画であると。そして今、最終処分場のほうも、大体方向性が整ってきたというふうに聞いていますが、長期ということになると、そこが建設されて何年間利用可能で、そうするとその後、環境アセスメントから新しい処分場をつくるのに何年。10年とかと言われてますから、そうすると、いつまた検討を始めていかなきゃいけないのかというようなことが、長期計画になっていくというふうに考えているんですが、これはどう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

廃棄物最終処分場につきましては、大体今のところ15年間という形で国の交付金が認められておりますので、15年間使用できるものという大きさになるかと思います。ただ、実際の運用としましては、15年間というだけでは成り立ちませんので、実際は、もう少し長く使っていくというような運用方法があるかと思います。

また、新たな最終処分場を建設するとなると、どうしても地元合意等に時間を要することから、10年以上かかるというふうに思っておりますので、新しく最終処分場をつくった段階では、なるべく長く使えるような、要は処分量をできるような、またごみ処理施設等も考えていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私がさっき聞いたのは、そういう思いの中で見込みを立てますよね。そうすると、だけど新しい処分場に10年かかるわけだから、いつごろ検討を始めていくんだよということがないと、だめだろうということですよ。だから物すごく長いサイクルの中で、例えば15年だとしたら、10年か

かるとしたら新しい処分ができてから5年後には、もう検討を始めなきゃいけないことを長期計画の中に盛り込んでいかなきゃいけないという、そういう視野に立った長期計画を立てる必要があるんじゃないかということですね。今のこの計画の中では、当然まだめどが立ってなかったら、そこまで入ってないわけですよ、それをどうしていくかということなんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

昨年末、大野の一般廃棄物最終処分場、これについて新たな場所について一応地元からご承認をちょうだいいたしました。それに基づきまして、今、日本環境衛生センターにその場所での廃棄物の新しい処分場を検討といいますか、基本的な計画づくりを今お願いしております。

その中で大野の現行の下のほうに、何年分の最終処分場ができるかというのは、まだわかっておりません。これが大体明らかになった時点で、例えば今そこに20年分ぐらいもしつくれるということであれば、やはり10年ぐらい新しい処分場にはかかると言われてます。

そういった場合、なかなか今、他市の例を見ますと、別なというか、新たな場所での処分場というのを認めてもらうには、物すごく時間がかかる、あるいは認めてもらえないという実態があることから、やはりそういう大野地域での最終処分場の容量を考えて、次の計画というものをいつごろ立てなきゃならないかというのをやっていかなければならないというふうに思ってますので、今、当面は大野の一般廃棄物最終処分場を、どれぐらい使えるかというのを早急に出していただいて、その上で早急に、すぐ取り組まなければならないのか、多少時間があるのか、そういった判断をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

なかなかストレートな答えにならないんであれなんですけど、要するにこれから建設していく処分場の寿命を確認した上で、いつから検討するというのも長期計画の中に盛り込んでいくということですね。そうやって答えてもらえればよかったんです。

じゃあ次にきます、時間がありませんので。

心豊かな子どもを育むまちづくりについてですが、平成23年度は実践意識の高揚と実践資料の作成に取り組んできたということですよ。何回も言ってますけど、入り口がどうもやっぱりわかりにくいんですよ。というのは、理解はできますよ。何でかという、糸魚川市の子ども一貫教育は、日本一と言ったところから始まってのわけです。そうすると、市民側はどういうふうにとるか、日本一の子どもって何というところから入るわけですね。そこがいまだに私も質問を受けることが多いんですよ。

僕の考えですが、日本一の子育て環境という、子育て環境が日本一すばらしい糸魚川市を目指すというようなことであれば、わかりやすくなっていくということです。システムづくりという言い方もこれまでしてきましたけど、糸魚川市の子育て環境は、日本一であるということを目指すべ

きだと思っんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

今、伊藤議員がお話になられたように、日本一トップの子どもを育てるという意味合いではなくて、子どもが自分の力を最大限に発揮できるような、その子どもの育っていく環境を整えていくその仕組みをつくっていく、そういうふうに我々は理解しながら取り組みをしています。ただ、それが説明が不十分なために、なかなかその辺のところ、十分に理解してもらえていないのかもしれない。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

今の話はわかるんですよ、主張は。ところが今言った説明の中に、日本一が出てこないじゃないですか。仕組みをつくると言ったんですね、その仕組みを日本一にするんだと言えば、日本一と言ったことの説明になるけど、今の説明の中に日本一が出てこないから、日本一の説明にならないんですよ。だから理解できない、市民側はわからない、何が日本一なのというところから入ってます。日本一と言っちゃってるんだからね、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

お答えいたします。

日本一の子どもを育てる、育むという意味合いには、今、伊藤議員がおっしゃったように、日本一子どもを育てるための支援を充実する、そういう取り組みを目指すという形で考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

方向性が正しくて、わかりやすくてぶれない言い方、だれに聞いても同じに答えてきて、わかりやすいということが大事なんですよ。だから考え方があって、それをその人、その人の言葉で、違う言葉で説明したらわからない、理解できない。キャッチフレーズという言い方もありますけど、要するに、そこが理解できないと、みんなが同じ思いで取り組んでいくところにならないんですね。もう細かいことは聞きませんと言ってます、本当に聞かないです。この大枠だけの話ですから、私が今言いたいのは。どうですか、教育長。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

言葉足らずだったと思います。山崎課長が答えたとおりなんですが、とにかく瞳の輝く子どもを育てたい、そういう日本一の教育環境をつくるという立場で私たちは物事を考えて動いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

それをわかりやすく、ぶれないようにしてください。一人一人説明が違うというんじゃなくて、それを教育委員会で徹底して、そしてだれが説明しても同じで、わかりやすく説明できるようにしてもらいたいと思います。思いがあるから、いろいろ出てきます、言葉が。足せば足すほど、わからなくなるということですからね。

それで1人の子どもを複数で育てるとするのは、総務文教常任委員会で秋田県大仙市のすばらしい教育システムを見てきました。何度も一般質問や委員会で言ってますが、決して詰め込み教育ではなくて、糸魚川市が目指す学校・家庭・地域連携が見事に達成されている中で、底辺の底上げによる教育を実践して、全国で学力テストで平均点がトップクラスということまで持ち上げていってる。ぜひ行ってきてくださいよ、行って勉強してきてください。我々が伝聞で何ぼ言うよりも、実際に行って見てきてもらいたいですね、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えします。

行かれた総文の議員さんから、いろいろと資料を預かりながらお話も聞いておりますし、1回見にくることによって、「百聞は一見にしかず」だよということで行って話を聞いて、自分の目で確かめてくれば、はっきり見えてくるんじゃないかということも言われております。ぜひ行くように努力したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

食育に関しても小浜市での取り組みを委員会で視察した後に、多くの議員がここで発言をする中で、担当者の方に来ていただいたりして今取り組んでいるそうですね。やはりそういうふうにつなげていってもらいたいと思います。我々議員が行って見てきて声を大きくして言ってることは、無駄なことはほとんどないんですから、素直に受け入れてもらいたいと思いますね。

それから食育ですが、キッズ・キッチンを私も見学してみて、やっぱりまさにマンパワーが必要な事業ですね。今後、人を動員して、子どもたちとかかわらせていくというのは、非常にいい仕組みなんですけど、今後どう対応していくつもりですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

キッズ・キッチンでありますけど、現在、市内で23園、参加して実施をしております。やはり議員がおっしゃるように、かなり子どもたち自身の手でやってもらうというようなことですが、それを見守る、指導する職員がいっぱい要ります。今、ボランティアを中心にしながら指導員を募っているわけですが、ぜひ充実させていきながら、多くの人たちで子どもたちを指導していきたい、そんなふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

当然、予算も必要ですよ。充実していくために予算をふやして、活動を活発にしていく必要があります。教育は繰り返し、繰り返し根比べですよ。やはり吸い込んでいくというのが教育の基本です。ある意味、鍛えるということもあります。

1人の子どものが必要な回数を経験していくと、もっともっと充実されていくということが求められていると思いますので、今後、もう1つ踏み込んだ対応ができたならというふうに願っておりますので、お願いします。

小浜市でのキーワードは「栽培」「料理」「共食」なんですよ。糸魚川では、「栽培」の部分、どうも欠けていますよね。地産地消で大和川小学校を見せてもらいましたが、地元産の生産者とかかわりながら、地元産の食材を使っているのはいいんですが、小浜市は地元産の栽培のところにかかわるんです、子どもたちが。それによって、より食の大切さを学ぶ。このことに対する取り組みはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

教育委員会こども課長（山崎光隆君）

子どもたちにとってはつくることから、それからそれを調理して食べる一貫した活動、あるいは地元でとれた魚とかそういう食材を使って、それを調理していただくということから、自分の住んでいるところを理解したり、あるいは感謝の気持ちを持ったりすることで、非常に重要な教育活動だと考えております。

現在、糸魚川市内の小学校では、全小学校で何らかの野菜だとか米だとか地元の魚、地引き網体験を通じてその魚をいただくとか、何らかの形でその地域のもので栽培したものをいただいたりすることとしながら、体感する食育を行っております。

ただ、大和川地区とか下早川地区のように、そこで栽培していただく地元へ行ってかわりながらということは、まだ2、3校程度であり、また、いろいろ条件が整わないと、なかなかできない部分もあるというふうに考えております。その学校に合った形でのつくる、それから料理する、いただくという、その一連の活動を大事にしていきたいと、そう思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ぜひ栽培の部分も視野に入れて、今後、食育の拡大を図っていただきたい。

公民館体制ですが、先ほど答弁の中で、青海地区の公民館については移行後、公民館長会議で検証していくということでしたが、多分、机上でいろいろ考えて、そして実施していくと、いろいろそごが生じると思うんですね。全く新しいシステムになるわけですから、それを検証しながら、改善していくということをしっかりやってもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

青海地域において今の公民館体制は、自治会業務と一体となった形でございます。25年までの3年間の間に、移行準備期間でございますが、新しい地区公民館を構築するために協議をしております。そのためには組織や業務内容や、その業務を行う職員の配置、そういうものを考えながら、これから支館に移行する自治会業務を行うバランス、連携を図りながら組み立ててまいります。移行後につきましても、当初から完全なものにはならないとっておりますので、動きながらよりよい公民館活動となるように、充実した活動となるように取り組んでまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

じゃあ新幹線開業に向けたまちづくりに移ります。

残念ながらジオパーク戦略プランでは、外からの目線に対する明確なインパクトのあるイメージづくりというのが、これは何回も言ってますが十分ではないので、もう我々から見てても売り込み路線というのが読み取りにくいんですね。糸魚川ジオパークって何って聞かれたら、どう説明しますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

ジオパークそのものは誘客拡大の1つの手法、ないしはツールであるわけですが、糸魚川としてはジオパークという活用の範囲なり、それをどういうふうに磨いて情報発信するかというのが大きな課題だと思います。特に議員おっしゃるとおり戦略プランは、いわゆる総花的だというふうにも言われております。そこから核になるものを取り出して、やはりそれを少し交通整理しながら実施に移行していけるようなものが、今回プロジェクトとして活動であります。そういうものを実際、もう少し外に見えるような形で展開してまいりたいというふうに思っております。

議長（古畑浩一君）

違う。課長、ジオパークって尋ねられたら何と答えるかと、一言で言えば何なのかと聞いている。交流観光課長（滝川一夫君）

議員おっしゃるとおり、ヒスイ並びに断層を中心とした地域資源の宝庫といえますが、素材の活用、それに向けた糸魚川の新しいまちづくりというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

これもさっきの日本一の子どもを育てる、育むと一緒なんですよ。やっぱりわかりやすすくないとだめで、だれに聞いても同じでなければならぬ。そこが漠然としていて、ただ思いがいろいろあるから説明すると、いや、これも、あれも、これもという説明になってしまうこと自体が、わかりにくくて、市民にも理解が進まないということになっていくということです。そうすると、取り組みがちよっと滞るということになりかねない。

今、一生懸命取り組んでいて、いろんな意味で効果が出てきてるものを、もっと効果的にするためにという意味で今お話ししてるんですけどね、だめだというんじゃなくて。今までの取り組みがだめじゃなくて、そのこのところをもう1回ちょっと引いて整理し直して、糸魚川ジオパークって何っていうところを明確にして、今までの施策をまた進めていくことによって、効果が上がっていくと思うんですよ。市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに伊藤議員ご指摘の点については、非常にわかりやすくとらえるんですが、また逆に、それが一番難しいところでもあります。非常にジオの多様性、ジオパークの多様性というのが非常に大きくあるわけありまして、だから魅力があって、いろんな人が加わっていく。学者も加わり、また地域振興の関係でも加わっておるところではないかなと思うわけでありまして。それを1つに絞り込んだときに、果たしてどうかなという心配もあるんですが、まさしく今本当に私はご指摘のとおり、大地の公園ぐらいのところまで一緒にできるわけですが、その下へくると、みんなばらばらになってくるんでないかな。その辺が魅力であり、問題でもあるのかなと思うわけでありまして。その辺をどのようにとらえていくか、これは逆に世界ジオパーク、日本ジオパークの中でも、

結構同じような論議をされるとございます。その辺はやはり、もうちょっと詰めなくてはいけない部分でもあるととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

靴下の話があるじゃないですか。いい靴下をつくって売り出しても全然売れなかったと。それを2年後ぐらいに、「通勤快足」という名前をつけて売ったらばか売れしたと、ヒット商品になった。同じ品物で何も変わってないと、品質も同じです。こういうことだと思ふんですよね。

だけど、これを見つけ出すことは、なかなか難しいです、市長が言うように。難しいけど、そこに取り組まなかったら、わかりやすくなかなかないところですので、今、そこへ向けての話をされたんで、ぜひそういうふうにしていただきたいと思ふんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに切り口方の中においては、そういうことだろうと思ふんですが、世界の中のジオパークという中においては、日本は新しい地質を見出していこう、それをまた売り出していこうという形の中ではわかるし、ヨーロッパや中国は古い地層を中心にジオパークという形で出てきとるわけでございますので、それと異質のものとして魅力づくりをしていこうという形では新しい地質、火山とかそういうものが中心になってこようかと思ふます。そうなりますと、じゃあ日本全体のジオパークは、全部火山かという、そうでないものもあつたりもするわけであります。非常にそういったところで難しい点ではあるわけでございますが、そういう今ご指摘の点もまたあるわけでありますので、難しいかもしれませんが、これは何とかまとめていかないかんと思つております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

導入部分ですからね、僕が言ってるのは。入ってもらったら、こんなすばらしいという話はどれだけでもあるわけですから、入ってもらわなかったら、すばらしさは絶対わからないところだと思ふんですね。

さっきの子ども一貫教育のほうは、これは市内の教育の問題ですから内向きの問題ですけど、このジオパークは内向きと外向き、両方要るわけですよ。内向きの市民の理解を促進して市民の取り組み。それから外への情報発信で、非常にわかりやすい形でやっていくと、これはぜひまた視点を1つプラスして、取り組んでいただきたい。

それから、次、新幹線、並行在来線等の話になっていきますが、平成13年ごろに整えられた構想に対してという話を、私はさんざんしているんですけど、その後の世の中の移り変わりや先進地

の事例をもとに、その構想の中身を見直した例というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これも何度か伊藤議員と、ここでお話をさせていただきました。基本的な構想については見直してはございませんが、個々の中で例えば新幹線駅の下で、これが鉄道・運輸機構、それからJR西の中で、ここをまるまるお借りすることによって、ここについてはジオパークの玄関口として広く利用して、ここを発信にするとか、それから、もう1点は、キハの譲り受けに関しまして、レンガ車庫との組み合わせによって、その辺も含めた新たなといいますか、その当時にはなかったものも、含めさせていただいたところがございます。

議長（古畑浩一君）

伊藤議員の質問中ではありますが、議事の都合上、5時を回るということが予想されます。

時間の延長を許可することにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

異議なしと認めます。

それでは本会議は、5時を延長しても続けるということに決しました。

それでは伊藤議員、質問を続けてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

きのう田原議員の質問の中にも出てましたが、電線地中化後のアーケードの復旧ですね。それと重複する質問はしませんが、糸魚川市らしいアーケードに柔軟な発想で整えていくと。例えばワークショップのような形で、糸魚川小学校の子どもたちがかわっていくことによって、また自分たちの考えの中で駅前が整っていくことで、郷土愛も醸成されるというようなことも考えていいんじゃないかなと思うんですけど、どうですか。

議長（古畑浩一君）

伊藤議員、発言の最中なんですけど、今、「きのう」の田原議員の質問でとおっしゃいましたよね、「午前中」のと言い直してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

時間の感覚がおかしくなってすみません。「きのう」と言いましたが、「午前中」の田原議員の質問です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

アーケードのデザイン、設計等につきましては、田原議員にお答えした状況でございますけれども、今ご提案の向きにつきましては、実施主体となります商店街組合の皆様にお伝えをいたしまして、いろんなご意見を聞く中で、より糸魚川にふさわしい形のものができるようにということで、私どもも一緒になって考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

時間がないのでちょっと飛ばしていきます。

利便性の高いダイヤ編成、優等列車確保などというところですが、早く並行在来線株式会社を設立したことで、県と会社の責任がかえってあいまいになってというか、様子を見合っているような状態になってしまって、お互いにはっきりものを言わないような気がするんですよ。

朝日町での富山県交通政策局の課長さんのお話は、非常に明快でわかりやすかった。なぜかという方針を明言された、はっきりした。どうも新潟県は、糸魚川市も含めてですが、方針はあっても決まってないことは言葉を濁す、方針すら明言しない。できないかもしれない、これでは全くわからないことになる。ちょっとはっきり方針は言ってほしいんですが、糸魚川・新潟間の優等列車についてどう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは当市が新幹線の利用、それから並行在をこれから活用していく上で、一番大きな重要なポイントの1つだと。これは絶対といたしますか、通していきたい事案の1つだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

じゃあそれを実現するために、今後戦略というのはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは戦略と言えるかどうか分かりませんが、常々会議の中では、これはぜひ必要で、これがいろんな経営計画の中、それから方向、方針を言う中でのポイントの1つという形の中で、答えを発

信しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私の考えを言いますと、キーワードはやはり「日本海ライン」ですよ。北陸の中心都市となっている新潟市には国の出先機関がありますので、日本海ラインが重要になるわけですね。西から来たときに、糸魚川で新幹線に乗りかえますね。それと同じように新潟に行くときも、やはり糸魚川が新潟行きのポイントになっていくと。西方面のことを考えたときに、糸魚川はいかに重要かというところが非常に大きなポイントになって、日本海ラインって考えたときにね。このラインが崩れると北陸という単位で考えたときに、今、国の出先機関が新潟にあるために、新潟市に大手さんの北陸支店も多くあります。これが崩れますよ、新潟から金沢へ移って行っちゃう、もう移ってる会社もあります。そういうところを重要視して、やっぱり見込んでいってもらいたいと思うんですけど、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

朝日町へ皆さんと一緒に研修に行かれたときに富山県の方が、確かに具体的にいろんなことを話をされました。そこら辺を比べると、やはり新潟県のほうは1年ほど前から準備した割には、方針が進んでないというのが私も実感でありまして、会社のほうには、そのようなことを話しながら進めております。

ただ、やっぱり糸魚川については、今、お話がありましたように利便性の低下をさせない、あるいは優等列車を持ちたい、あるいはそれらを進めるためには、やはり糸魚川の利点というのが当然出てくるわけですので、そのことを十分踏まえながら取り組まなきゃならんというふうに思っています。

やはり日本海ライン、今言われているように日本海を縦断する鉄道の1つの拠点、やっぱり糸魚川になるんだろうと思っています。そのことを十分認識しながら、県あるいは並行在来線の会社に今後も話をしていきますし、また議会からも応援を、一体として進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

わかりました。

新駅設置ですが、これは地元負担がついて回りますよね。これはどう考えてますか、それをして新駅は設置するという覚悟はできてますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新駅につきましては、これまで請願方式、その自治体がつくりたいと言えば自治体の負担でということでありましたが、先般の県の議会の中で県知事は、県として応分の負担をする中でこれらを進めようという話が出ました。そのことから応分の負担というのは、県でどれぐらい負担していただけるかということもお話をしましたが、実際に具体的な例が出たら詰めていきたいというような話でありましたが、負担率等が出てないわけですが、ある程度の負担はいただけるものというふうに思ってます。それと、地元からも今いろんな意見が出ておりますので、そこら辺は十分聞きながら対応しなきゃならんと思ってますが、ただ、駅をつくるということは都市計画そのもの、あるいはいろんなことでの影響が出ると思っておりますので、そこら辺は十分踏まえながら詰めていきたいという考えであります。負担のことについては、今後また十分そこら辺をあわせながら、検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

私には、もう絶対やるというふうに聞こえましたので、よろしくお願いします。

利便性の高いダイヤ編成ということですが、先日、新幹線の所要時間と運賃の試算というのが報道されましたよね。上越は各駅停車と速達列車というのが2段書きになっているんですけど、糸魚川は各駅停車だけの時間しか表示されてなかった。これには意味があるんですか。もうそういうことになってしまったということなのか、それともあらゆる検討の中で、たまたまそれが出てきたということなのか、どうなんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

鉄道・運輸機構の小委員会の中で、それらの試算を出されたということで、先般、新聞発表がありました。具体的には、金沢から以西のほうにつなげていった後に、新幹線そのものがどうなるかということの基本にして、あのような試算が出たわけですが、ただ、やはりあれだけ具体的に出るということは、根底には金沢までの今の新幹線の形が、これらに沿ってくるんじゃないかというような危機感を持っています。

そのことから県のほうにも、これらのことは十分糸魚川市の置かれている立場、あるいは議会、市を通して、いろんな要望を上げてるわけですので、このことを十分踏まえる中で、今後進めていただきたいということをや要請、連絡をしておりますので、やはりこのことが基本になっていかれては、糸魚川が今まで負担をして、結果とすれば地元の要望等が少なく、ある程度解消しないうちに、お金だけ出したというような形では困るということをおっしゃるので、やはりそこら辺も十分県としても、JRあるいは並行在来線の中で話をする中で、細部はこれからの話ですよということ

はお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

新幹線にしても並行在来線にしても、ダイヤ編成などに関しては、ただ申し入れてるだけではなくて、やはり糸魚川市の独自案を示すということもケースによってあるかもしれませんが、そして交渉していくと。会社側が、国や県も含めてですが、嫌がるほどの粘り強さがやっぱり必要だと思うんですよ。厳しい要求に対しては、相応の対応がやっぱりされます。あっさりしてれば、甘く見られますよ。やはり粘り強く、強い交渉をお願いしたいと思いますが、再度ちょっとお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

新聞報道で見る限り、また、我々は今その中でいろいろ情報収集する中においては、これはあくまでも国土交通省が、試案としてつくったというような言い方をされてるんですが、我々といたしまして、それはもうたたき台みたいな形になるのではないかという、やはり危惧をするわけでありまして、そのようなことで我々といたしましては、大変これに対しては心配もしておるわけでございますので。県のほうでは、そういうとらえ方をしてない部分もございます。そういうことで、我々といたしましては、何としてもこれは糸魚川の考え方というのを、どこかでしっかり出していかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

強い交渉をお願いします。

交通ネットワークの完成ですが、交通ネットワークの充実は何のためかと。さっき言った防災のこともありますよね、それから産業振興、いろいろあると。要するに都市計画もあって、それをつくると、かなり古いものがそのままずっと生きてると。最近ちょっと見直されましたが、でも、かびの生えた食べ物を捨てるのは計画の見直しじゃなくて、これはただの整理でしかないんですよ。

だから交通ネットワークに関して見直しというのは、本当の意味で、いろいろな観点からやっていかなきゃいけないと思うんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、市で持っております交通ネットワークビジョン、これは平成18年度、19年の3月につく

ったものでありまして、この当時、私も建設課で若干これに関連をしておりました。

これは短期・中期・長期という中で、その当時はどうしても建設課でしたので、道路網を中心の形で作成しておりましたが、それからもう5年たった中で、まず、短期の見直しの時期もきておりますし、また、当時から新幹線というものは当然意識してはありましたけど、今度は並行在来線もうちの、要するに第三セクターという会社の中では、そういうダイヤも、それから当然、取締役としても、それから会社の株主としても意見を言える立場だと思っておりますので、まず、道路の見直しは、それはそれでももちろんですが、さらに2次交通のそういう公共交通も含めた中で、まず、24年度は短期的な見直しをして、また次につなげていきたいと、そういうふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

ちょっとだけ私見を言うと、交通ネットワークって国の単位で言うと国力アップなんですよ。やはりそれによって流通形態を整えて国力アップして、国際競争力を高める。それを地方に置きかえて考えれば、おのずとわかってくるわけで、やはり交通がだめだと産業がだめになってきますよね。やはりそこでしっかり、先ほどの新駅設置にも、多分そこでのネットワークの組みかえというのが出てくるだろうと思っておりますので、しっかり取り組んでいただきたいと思っております。

それから5点目ですね、市内既存企業支援強化等の話ですが、糸魚川市の就業人口の産業別就業割合というのがありますよね、国勢調査による。これをしっかりと分析した上で産業振興策というのは、庁内で論じられているものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

当然、当市の産業の就業人口の割合というのは、同様の5万人都市に比べてのやっぱり特徴がある。比較的製造業に携わる就業者が多いというような特徴がございます。そういうものは総合計画の策定、あるいは総合計画後期基本計画の策定の中では、そういうことを十分認識をしながら計画の取り組みをいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

大分類の産業別就業率でいくと、17年の国勢調査結果ですが、一番多い製造業が20.36%、次いで建設業が16.44%、製造業の大きな部分を占めてる窯業、セメント製造業も建設関連産業です。生コン骨材製造販売、建設資材販売商社など、建設業を取引相手にしてる業種を入れると、直接建設業就業率の倍以上の方々がかかわっているということが言えると思っております。これは私が建設業だから言ってるわけじゃないんですよ。ここは誤解のないように、はっきり言っときます。実

際に、糸魚川市民の半数近い方々の生活が建設業に依存しているのが、この糸魚川市の実態だということで、ことしの豪雪の中での除雪作業による交通確保などというのも、またその力に依存している部分はあるわけですよね。一般市民の方々が身にしみて感じているはずですよ。

コンクリートから人などと言って、最近、ちょっと言わなくなったようですが、公共事業費を大きく削減してきた。この現実をどうとらえていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

よくそれを例にとらえて言われるわけでごさいます、我々は好きで公共事業をやってきたわけではございません。地域のやはり将来計画や、また、地域の市民生活の中で出てきた要望に対して、我々はずっと計画的、またはその整備をしてきたわけでありまして。また現在も市内には数多くの、100を超える各自治区があるわけでごさいます、そこから出てくる要望のやはり一番主たるものは道路であったり、または水路であったりしてのわけでごさいます、そういったものをとらえる中、そしてまた我々のこの糸魚川市の地形を見ますと、自然災害の多い地形でごさいますので、それに対しての手だてもしていかなくちゃいけないという中において、我々は公共事業の必要性を常々申し上げてきてのわけでごさいますし、それに際しておりますこの活動にいたしましても、かなり下げさせていただいております。そういうような形で、私は公共事業という形の中で、単に財政的な面について、これは減らさないかなんていうことは考えてなくて、今進めてまいっておるわけでごさいます。

今、皆様方に、これからご審議いただく平成24年度のこの予算にいたしましても、一般会計の中における土木費の占める割合というのも、他の地域に比べては高い位置にあるわけでごさいます、そういったことで、まだまだ我々のところは社会資本整備がおくれておる地域だととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

企業が人かなんていう言い方をすることもありますけど、これは違うんですね、企業イコール人なんですよ。企業というのは人が組み上げているものであって、これを相反するようにとらえて物事をとらえるようでは、大局を論ずることはできないということになります。

市の単費で事業を行うということで限界がある。国、県の補助事業を引っ張ってくるには、これは熱意が必要です。市の職員が仕事を生み出す力を持っていないと、公共事業も引っ張ってこれない。これはどう考えてますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさにそのとおりだと思っております。熱意と、やはり情報の収集力だろうと思うわけでありまして、熱意だけでもだめでございますが、やはり県、国との情報ネットをしっかりと持ってなくちゃいけないわけでございますし、また、まとめたときにどのようなルートで、今、国なり県に出向いて、この事業の決定をいただくかという努力は、本当にやらなくちゃいけないことだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

13番（伊藤文博君）

日本一の子育て環境で才能の豊かな人を育てて、糸魚川市でまた定着してもらい、また豊かな郷土をつくって、子孫に残していくというようなサイクルを構築していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

+

午後5時14分 延会

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員